



Sunrise Ministry

アンカー

# Anchor

## 我が波乱万丈の人生

Dr. ウォルター・ファイトの証 p22

## 大いなる像とは何か？

一心の誠実な者へー p36

## 2010年春のセミナー報告 p46

## 第59回セブンスデー・アドベンチスト世界総会 p45

私のチルダイを吹き飛ばして下さった神様

証—伊佐真勇 p53

## 世界を操る真の黒幕

世界中の重要な出来事は偶然に起こっている  
のではない！

45号

2010年 7月

「政治の世界では、何事も偶然に起こるということはない。もし何かが起こったならば、それは前もって、そうなるように謀られていたのだ。」 フランクリン・D・ルーズベルト  
第32代米国大統領



私は多くのことをイエズス会から学んだ。…私は多くのことをこの組織(カトリック教会)から自分の党に取り入れた。  
(Smokescreen, 20)



# 世界を操る 真の黒幕

日本人の知らない恐るべき真実！

ヒトラーは、『我が闘争』の草稿で次のように書いている：

「民衆と政府は区別しなければならぬ。統治するものと背後の黒幕。わが民族にとって今日の政治は、すべて狂想と妄想。しかし、**真の黒幕**にとって政治はもっとも明瞭な打算であり、もっとも残酷な理性である。わが民族の幸福という観点からでなく民族の破滅の観点から悪魔の倫理。われわれの破壊の目的、戦前…戦争…戦後…」

世界を一つにし、支配しようと陰謀（ひそかにたくらむこと）を企てる者たちがいることは、ちまたに出回っている多くの本や論文を見ると分かる。

1990年に、「世界を支配するのはアメリカかそれともソ連か」というそれまでの二極体制は崩壊した。それ以来、アメリカ一極体制に変わり、中国、インドの発展、進出を見て、再び多極体制になりつつあると評する人たちもいる（聖書の預言からはそんなことは考えられない。やはり、新世界秩序構築のためには、米国がバチカンの世界支配の助っ人であることには間違いがない）。

世界支配を狙っているのは、フリーメーソンだ、イルミナチ（啓明結社、光明結社）だ、ビルダバーグ会議だ、外国問題評議会＝CFRだ、日米欧三極委員会（トライラティラル・コミッション）だ、ロックフェラーの世界支配陰謀だ、ロスチャイルドの世界支配陰謀だ、国際ユダヤの世界支配陰謀だ、ローマクラブだ、円卓会議だ、300委員会、マフィア、CIA（アメリカ中央情報局）、FBI（米連邦捜査局）だ、国際銀行家だ、その他の秘密結社等々と言われているが、あまりにもいろいろな組織があるので、全く混乱させられるであろう。そのため、たいていの人が陰謀論を疑う傾向にある。

しかし、世界最古の書物、聖書と終わりの時代の靈感の書一証の書からはっきりしていることは、バチカン/イエズス会であり、このことは、何回か書いてきた。アンカー43号には、「イエズス会の日本戦略」について書いた。高橋裕史著「イエズス会の世界戦略」という本も出ている。赤間剛著「バチカンの秘密—見えざる世界帝国の真実」バ

金城 重博

チカンの国際陰謀—世界最大の情報国家の世界戦略」、また、「フリーメイソンの秘密—世界最大の結社の真実」という本もある。

私は、赤間剛氏に直接電話したこともあった。「先生は、バチカンが世界支配を陰謀しているともおっしゃっていますが、フリーメイソンがそうするのですか、どちらなのですか」と聞いたら、「どちらでもいいですよ」ということであった。なるほど、どちらでもいいことは、研究して分かった。

多くの人は、フリーメイソン対バチカンという捉え方をしている。そうではなく、これらの多くの秘密結社、団体の真の黒幕はバチカン/イエズス会である。

大争闘第 35 章のタイトルは「良心の自由の危機」となっているが、英文では「法王教の狙い」である。法王教/バチカンの狙いは何であろうか。321 頁にずばり次のように書いてある：

### ローマ・カトリックの狙い：

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行ったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている」

まとめると：

1. 再び世界を支配すること  
(なぜ、再びであろうか。かつて聖書に預言されていたごとく紀元 538 年から 1798 年までの『1260 年』の間、ローマは全ヨーロッパの政治、経済、宗教を支配した経験がある。)
2. 迫害を復活させること
3. プロテスタントが行ったすべてのことを無効にすること

### イエズス会の目的：

「その目的とするところは、富と権力の獲得であり、プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興することであった」。「法王教の全闘士中、最も残酷で無法なイエズス会」である（大争闘上 293, 294）。しかし、徹底した奉仕の手段も使う。

まとめると：

1. 富と権力の獲得
2. プロテスタント主義をくつがえすこと
3. 法王権を復興すること



イエズス会の創設者  
イグナチウス・ロヨラとパウルス3世



前イエズス会総長コルベンバツハと  
法王ベネディクト16世



現イエズス会総長アドルフ・ニコラスと  
法王ベネディクト16世

イエズス会は、ローマ法王に仕える僕であることが分かる。



しかし、イエズス会は隠れ蓑（真相を隠す手段）を必要とした。1776年にアダム・ワイシャプトは、ロスチャイルドの支援を受けて『イルミナチ』（啓明結社）という秘密結社を作る。

『イルミナチ』は国王や法王からさえも迫害を受けて、幾たびか地下にもぐった。彼らも隠れ蓑を必要とした。近代フリーメイソンという秘密結社は彼らにとって絶好の隠れ蓑となったので、その中に入り、やがてフリーメイソンの中核となる。フリーメイソンの表向きの社会から認められ称賛される各種団体は、彼らの目的を達成する最良の手段である。

そこでまず、第一部で、一般的に目に見えている秘密結社、フリーメイソン/イルミナチのことは見たい。

その次第二部で、ほんとの黒幕は、バチカン/イエズス会であることを見よう。前者と後者はどんな関係にあるか見たい。

## 第1部：フリーメイソン/イルミナチの陰謀



まず日本のフリーメイソン化について考え、それからフリーメイソン/イルミナチについて考えよう。

### 日本のフリーメイソン化

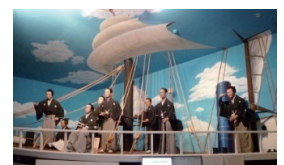
イエズス会の日本戦略はアンカー 43号に書いたが、イエズス会創設の協力者の一人、フランシスコ・ザビエルが日本占領に来たのが1549年であった。戦国時代の三将軍—織田信長、豊臣秀吉、徳川家康はそれぞれイエズス会に翻弄された。日本は危うくも中南米のようにイエズス会によって植民地化されるところであったが、摂理のうちにウィリアム・アダムスの入れ知恵で、徳川家康はイエズス会の陰謀を見破った。そしてついに、三代将軍家光が、鎖国制度を確定し、250年にわたる江戸幕府の基礎を築いたのであった。

最近「都市伝説、フリーメイソンと日本の歴史」というテレビ番組をインターネットの動画で見た。非常に興味深いというか凄まじいものであった。この研究の入門編として、読者にもぜひ見てほしいと思う。日本の歴史にフリーメイソンがどれだけ深くかかわってきたかが分かる。アメリカ独立革命、フランス革命、ロシア革命、イタリア革命、

中国文化革命、そして日本の明治維新もみな、フリーメイソンによって起こされた出来事であった。

フリーメイソンとは、世界最古の世界最大の友愛団体、秘密結社といわれている。会員が約300万人という。

1859年9月19日、トーマス・グラバーが長崎にやってきた。スコットランド出身である。グラバーが日本に武器商人としてきた時、彼は21才であった。25歳のときにあのグラバー邸を完成させた。彼のほんとうの目的は明治維新と軍事物資の供給であった。その目的を果たすために、彼は坂本龍馬を仲介役に入れて、薩摩（鹿児島）と長州（山口県）の同盟—『薩長同盟』を成し遂げる。そして明治維新を起こす。



坂本龍馬がフリーメーソンであったのか、ただ操られていたのか、両方の見方があるので分からない。

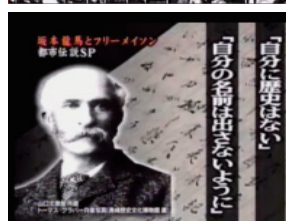
『石の扉』という話題の本に、「確かに、一介の脱藩浪人だった龍馬が神がかり的偉業を次々と成し遂げたのはいささか不可解ではある。しかし、これが事実なら日本史を大きく揺るがすこととなる」とある。

長州の伊藤博文、薩摩の五代友厚、亀山社中・海援隊の坂本竜馬、三菱（土佐商会）の岩崎弥太郎らを代表とする幕末から明治にかけて活躍した人物が続々とグラバー邸を訪れる。グラバー邸には隠し部屋があった。ここで日本をひっくり返す策略を密会に密会を重ねて練られていたのである。

グラバーは、俗に言う長州ファイブをフリーメーソンの本場、イギリスに密航させ、さらに薩摩藩主の主要人物も密航させる。何のために？ フリーメーソンの思想を植え付けるために！ フリーメーソンは、既存の政府を壊して、ついには世界政府を打ち立てる目標を持っている。

1863年5月には、長州の伊藤や井上などの5人が密かにヨーロッパに旅立っていた。さらに1865年には、薩摩の五代友厚ら17人がヨーロッパに密航していた。上海にもたびたび長州の藩士らが出国している。これらはすべてグラバー（ジャーディン・マセソン）が手引していたのである。

竜馬は1865年5月に亀山社中（日本最初の商社）を設立したが、8月には亀山社中を通じてグラバーから第1回目の買いつけ商品であるアメリカ製7800挺の銃が社中に入荷。金額にすると50億円。そして2ヶ月後に長州藩に軍艦も渡していた。ジャーディン・マセソンの信用（状）を通じてグラバー商会が武器弾薬を極東に用意（買い付



け)し、それを薩摩藩に売りつける。つまり、その仲介役が竜馬の亀山社中・海援隊だったわけである。

グラバーは、幕府側の人物にも接触していた。その人は、西周！



彼は日本最初のフリーメーソンであると言われている。彼は15代将軍徳川慶喜の側近として活躍した。オランダ留学中にフリーメーソンに入会したのである。こうしてグラバーは、武士の解体をめざし、明治維新へと事を運んで行った。

### 倒幕とは？

徳川家康が1603年江戸に開いた武家政権と言われているが、アンカー43号に書いたように、家康は、外交顧問のウィリアム・アダムスからイエズス会の策略を聞かされて、「1606年、彼はキリスト教布教活動禁止令およびキリスト教徒棄教令を公布した。そして三代将軍家光によって、1633年に鎖国令が出された。イエズス会の目的は、日本から中国を征服するというものであった。「そしてイエズス会の神父たちは、日本の支配者の車に乗って北京に入城する希望をずっと以前から抱いていた」。(『バチカンの暗殺者たち』エリック・ジョン・フェルプス著 <http://d.hatena.ne.jp/rainbowringabe/>「日本人が知らない 恐るべき真実」)

フリーメーソンの狙い  
→徳川幕府の倒幕



時は流れて1853年、米国よりフリーメイソンであるペリー提督が艦隊を率いて来航し、砲艦外交（外交において軍艦の軍事力を背景として外交交渉を有利に進める手段）によって開国を迫る。



ペリー提督が琉球本島を歩いた行程図

「ペリー率いる日本遠征艦隊には、サスケハナ号（2450トン）とポーハタン号（2415トン）が含まれていましたが、当時2000トンを超す蒸気軍艦はアメリカだけが保有していたもので、何故喜望峰を回り、インド洋からシンガポール、上海に至るルートを選んだのかと言うと、イギリスに対する軍事的パフォーマンスの目的もあったわけですね。上海を出航した艦隊



は、沖縄に立ち寄り、小笠原諸島に向かいましたが、ペリーは本国に『イギリスの極東における勢力に対抗するには、沖縄にアメリカ海軍基地を建設すべきである』と書き送っています。アメリカの沖縄駐留軍の構想は、江戸末期のペリーの時代から既にあり、地政学上、今でも沖縄は重要な位置にあります。江戸幕府に、国書を渡したペリーは再び沖縄に行き、琉球政府に強要し、貯炭所建設を認めさせました。

(<http://www.unicef.or.jp/index.html>)

## 明治維新 1868年

「常時謀略が企てられ、永遠に報復が仕掛けられる。1854年、イエズス会はペリー准将の率いるアメリカ艦隊を使って日本を開国させた。その古き敵に対して復讐するために、イエズス会は外国勢力を使って、1868年の革命を作り出した。徳川将軍は“権力を不法に篡奪した者”という悪名を付

けられ、辞職するように強制され、徳川将軍家は15代で終焉した。

将軍家を追放した後、イエズス会は、天皇崇拝を復活させ、東京に、イエズス会の将棋の駒たる明治天皇を頂点とする中央集権国家を樹立した」エリック・フェリックス。

1867年、孝明天皇はフリーメイソンの策略に抵抗したので毒殺

されたと言われている。1868年8月27日に【明治】と改元された。



孝明、明治睦仁天皇、昭和裕仁天皇

イエズス会は、フリーメイソンを使って日本に革命をもたらすことになる。明治維新がフリーメイソンによって起こされたように、このフリーメイソンは、世界の各国々での革命に関与している。しかし、世界でも例を見ない無血革命であった。

「日本の近代化は明治維新以降に唱えられた、福沢諭吉の『脱亜入欧（だつあにゅうおう）』にあった。「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」の、「学問のすすめ」を書いて有名になった。彼は外国から帰った時、フランス革命を起こした啓蒙思想を持ちかえったフリーメイソンであったと言う。1868年慶応義塾大学を設立。



福沢諭吉



「ええじゃないか」騒動とは、日本の江戸時代末期の慶応3年（1867年）7月から翌明治元年（1868年）4月にかけて、東海道、畿内を中心に、江戸から四国に広がった社会現象である。「倒幕を予感した民衆の開放感の発露」であった。人びとは、

旧体制とそれを支える支配者に完全に愛想をつかし、心の底から不信感を抱き、その不信感は絶望と怒りに変わっていった。封建社会を支える江戸幕府が倒れるころ、商人や農民である一般庶民のあいだに「ええじゃないか運動」が自然発生的に起こった。人びとは表に飛び出し、裸で「ええじゃないか、ええじゃないか」と夜中まで踊り狂ったと言われている。



## 第二次世界大戦

第二次世界大戦もイエズス会 / フリーメイソンによって起こされたと言われている：

「1941年、日本人が報復を受けるべき時が来た。ローマのイエズス会は総長の監督下で、東京のロヨラの息子たち（イエズス会の兵士たち）は、米国と日本との間の戦争を作り出す。フリーメイソン、シュライナー位階によるルーズベルト大統領が完全に承知している状況の中で、真珠湾は東条の日本艦隊によって爆撃される。そして、それは全米国民に惨劇の嵐を巻き起こす。（米国）議会は、この謀略にうまうまと嵌められて、対日宣戦布告を議決する。イエズス会は、明治天皇と彼の孫、昭和天皇を通じて日本の軍隊を思いのままに動かし、1911年満州王朝（清帝国）を廃絶せしめ、第二次世界大戦中、1945年まで『ザ・レイプ・オブ・ナンキン』に述べられている如くに、中国人民を掠奪暴行し、大量に虐殺した」『バチカンの暗殺者たち』（エリック・ジョン・フェルプス著）より。 <http://d.hatena.ne.jp/rainbowring-abe/>

そう言っているのは、ケネディー暗殺研究家のフェルプスだけではない。イエズス会陰謀を説くSDAの牧師、ビル・ヒューズもそうである。

## そして戦後、フリーメイソンGHQによる日本占領

ダグラス・マッカーサーは、GHQ 最高司令官であ

り、フリーメイソンの第 33 階級の位にあった。日本を民主主義国家（自由、平等、博愛）にするためにいろいろな改革をする。フリーメイソン / イルミナチのマニフェストの目的、戦略を下記に見て頂きたい。

日本はイエズス会による植民地化を許さなかった。しかし、自由、平等、博愛の旗を掲げるフリーメイソンの民主主義に屈してしまった。マッカーサーがフリーメイソンであることを知った鳩山一郎もフリーメイソンに加わったことは公表されている。インターネットによると、その孫、鳩山由紀夫もフリーメイソンであると新総理、菅直人氏の妻が言ったそうだが、本人はそれを否定していると言う。

その真実は分からないが、民主党本部にはドル紙幣にあるイルミナチ / フリーメイソンのシンボルの目があると言う。

テレビ番組の「都市伝説」は次のような情報も投げている：

## 右は東京タワー

マッカーサーがフリーメイソン第 33 階級であったことにちなんで、昭和 33 年に 333 m のタワーが立てられたと言う。そのとなりにフリーメイソンのロッジがある。

## 郵政民営化

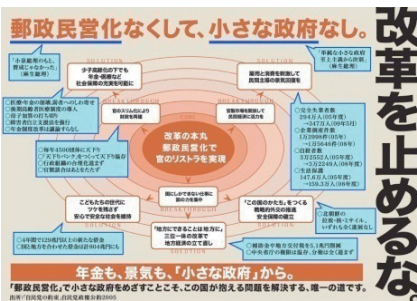
小泉純一郎元総理の郵政民営化もフリーメイソンの見えない大きな力の強硬政策であったと言う。これにはとんでもない落とし穴が存在するらしい。郵政民営化とは、アメリカからの強い



フリーメイソンの儀式に感動し、忠誠を誓った鳩山一郎  
日本ロッジ創生に尽力したマッカーサーと、クーデンホーフ・カレルギー

要望により郵政三事業を民営化する政策である。

それは、郵便、簡易保険、郵便貯金の民営化。郵便局に蓄えられていた国民の350兆円もの財産がアメリカなどの外資系金融機関に流出するという事態を招いている。万が一日本に非常事態が発生した場合、軍事的な防衛資金はどこからやりくりするのか。自国を守る最後の資金ですらアメリカの管理下に置かれるようになった。

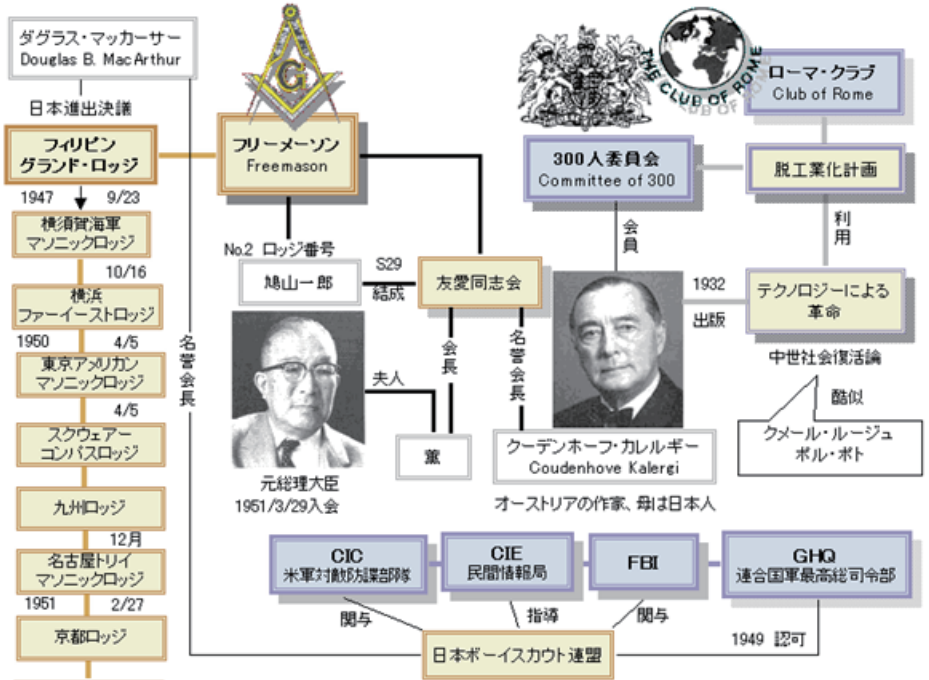


BSE問題（牛肉輸入問題） オージービーフ（オーストラリア産）のCMの三角形の目もフリーメイソンのシンボル。日本はアメリカの牛肉を禁止したので、オーストラリアからそれを輸入するようにアメリカから強制された。



そして小泉政権で行われた紙幣のモデルチェンジ。日本紙幣の人物像はみなフリーメイソンのメンバーである。

こんなことを言う人もある。「旧紙幣にも新紙幣にも1万円札に福沢諭吉の像が描かれているのは、彼が「文化革命」という言葉を使った、フリーメイソンであるからだ」。「日本で初めてインターネットを導入したのは、福沢



フリーメイソンはボーイスカウト運動と共に日本にやって来た

論吉が創設した慶応大学。インターネットに使うwwwはヘブル語で666だ。500円から1円までの硬貨をすべて足すと666になる。6と6と6を足すと18になる。これもフリーメイソンの数字。「1円から1万円まで日本の紙幣と硬貨をすべて一枚ずつ足すと18666円となる。1866年6月はどんな日か。それはフリーメイソンロッジがはじめて日本にできた日である」。みなユダヤ、フリーメイソンと結び付けたいのであろう。黙示録13章の666は真の世界支配の黒幕の法王教/イエズス会の数字を言うのであるが…。

### そして2009年8月の政権交代

「この政権交代は、明治維新でいえば大政奉還みたいなものだ。民主党本部のビルにフリーメイソンのシンボルがある。鳩山一郎は自由民主党でフリーメイソンであったが、鳩山由紀夫の率いる民主党政権に変わったのもフリーメイソンが関わる。明治維新と同じように、これも革命である」。

フリーメイソンのモットーは良いことのあるが、国民を骨抜きにするために、3Sが導入されるのであろう。①セックス (Sex)、②スクリーン (Screen) ③スポーツ (Sports)。そして国に対



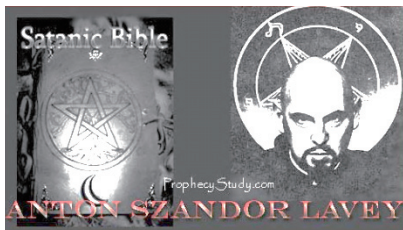
する忠誠心をなくさせるというのである。

フリーメイソンの自由と平等と博愛は、独裁政治、封建政治から国民を解放して素晴らしいものを提供してくれたように見えた。しかし、神抜きの自由、平等、博愛はほんとうの幸福をもたらさないことを歴史は教えていないだろうか。自由、自由とそれを追求しすぎると、平等はなくなる。平等を追求しすぎると自由はなくなる。愛を追求しすぎると肉欲的墮落に陥らないだろうか。

「平等」に突っ走ったソ連邦は、70年間の共産主義の失敗を証明した。ついに、1990年初頭にゴルバチョフは、ペレストロイカ（改革）すなわち、民主化、自由化と言ってソ連邦を崩壊させた。未だに共産主義国が少し残ってはいるが、…。

アメリカの硬貨に“In God We Trust”という言葉が刻まれている。「神に信頼して」という意味である。自由の国アメリカは、200年以上も祝福された原則から逸脱しようとしている。「自由」は「放縦」に傾き、プロテスタントの国は終盤を迎えようとしている。自由であるがゆえに、性の乱れは歯止めが利かなくなっている。自由であるがゆえに、サンフランシスコには、恐るべき忌まわしい「サタンの教会」が存在する。自由であるがゆえに、銃による無差別殺人が相次いで起こっている。ある政治家らは、人種のるつぼ、宗教のるつぼとなったアメリカを社会主義国家に変えようとしていると言われている。

「博愛」を誇示するバチカン/イエズス会の本性は、最も恐ろしい残酷性がある（大争闘上 293）。「サタンの徹底的残酷性を知ろうと思えば、ローマ・カトリック教会の歴史を見さえすればよいのである」大争闘下 327。



## イルミナチ/フリーメイソンとは何か？

E. G. ホワイトはフリーメイソンのことに言及しているだろうか？

「真理の光を持っている者はすべて、この地上歴史の終わりに働く不法の奥義について注意深く研究する必要がある。神を敬わない秘密結社と同盟に結束しようとする支配的権力の憎むべき働きについて神が警告しておられるこれらの悪から離れていなければならない」。Ms139, 1903, pp. 5, 6. ("The Message in Revelation," October 23, 1903.)

「下からの勢力がドラマの最後の場面を展開させようとして働いている。—すなわち、サタンがキリストとして現われ、秘密結社に関係している人々の中にあらゆる不義のまどわしをもって働こうとしている。同盟の欲望に負ける者は、敵の計画を実行しているのである。原因には結果が伴うのである」。—教会へのあかし・第八巻・27, 28

「フリーメイソンや他の秘密結社にキリスト教が加入することが正しいことかどうかと質問する人々がいる。これらの人々は上に挙げた聖句（イザヤ8:9-13）を考えてみるがいい。我々はキリスト教であるなら、どこにおいてもキリスト教でなければならない。神の言葉の標準に従ったキリスト教となろう」。Ev 618

「秘密結社」についての言及を証の書の索引で調べると56か所ある。「フリーメイソン」と名指している個所は2か所ある。

## 聖書の預言：

黙示録 11 章は、フランス革命についての預言である。各時代の争闘上巻 15 章「聖書とフランス革命」に詳しい説明がある。E. G. ホワイトは、フランス革命がいつ、なぜ起こったのか、どんな思想を持っていたのか、かなり詳しい説明をしている。

フランス革命を起こした権力について次のように書かれている：

「『彼らがあかしの終わると』ふたりの証人が荒布を着て預言する期間は、1798年で終わった。彼らが人目につかずに働く期間が終わりに近づくと、『底知れぬ所からのぼって来る獣』といわれている権力が、彼ら（旧約、新約聖書=神の言葉）に戦いをいどむのであった。ヨーロッパの多くの国々において、教会と国家を支配した諸権力は、幾世紀にもわたって、法王権を通して、サタ

ンに支配されていた。しかし、ここに、新たなサタンの権力があらわれたのである」

フランス革命はいつ現れるのか？

「1798年の少し前に、サタンの起源と性質をもったある種の権力が、立ち上がって聖書に戦いをいどむのであった。そして、神の二人の証人の証言がこうして沈黙させられるその国において、パロの無神論とソドムの放縦とがあらわれるのであった」。

「この預言は、フランスの歴史において、最も正確に最も著しく成就した。革命のさなか、1793年に、『文明国に生まれて教育を受け、ヨーロッパ諸国中最も優れた国の一つを統治する権利を有する人々から成る議会が、人の心が抱く最も厳肅な真理を、声をそろえて否定し、神に対する信仰と礼拝を満場一致で放棄するのを、世界は初めて聞いたのである』」。

「フランスは、議会の決議によって無神論を宣言し、首都の住民全体と他の地域の大群衆とが、男も女もその宣言を喜び、歌い踊ったという、世界史上唯一の国である」。大争闘上346,7

「またフランスは、特にソドムで著しかった特徴をあらわした。革命の時の墮落と腐敗の状態は、平原の町々に滅亡をもたらしたものと似ていた。そして歴史家は、預言のとおり、フランスの無神論と放縦な生活をともにあげている。『宗教に影響を及ぼすこれらの法律と密接な関係があったのが、結婚を軽視した法律であった。結婚は人間が結ぶ最も神聖な契約であって、その永続が社会の統合に最も貢献するものであるにもかかわらず、これを、二人の人間が随意に結んだり解いたりできる単なる一時的な民事契約にしてしまった。

…もし悪魔が、家庭生活の尊ぶべきもの、優雅なもの、また永続的なものを最も効果的に破壊し、それと同時に、その目的としている害毒を、世々にわたって引き続いて及ぼそうとするならば、結婚の墮落以上に効果的な手段を考え出すことはできなかったであろう。

…機知に富んだことを言うことで有名な女優、ソフィ・アルノーは、フランス革命時代の結婚を、『姦淫の秘蹟』と評した」。大争闘上347

### 1260年の法王至上権の期間



フランス革命=1789年      法王権失墜=1798年

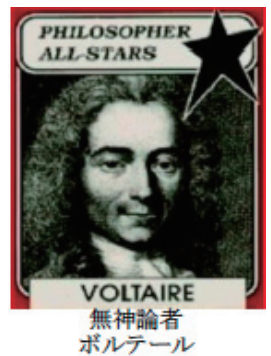


理性を神とし、一切の宗教を排除した。「理性の女神」は、「自由の女神」を生み出す。

ソドムで見られたセックスも自由というような、ソドミー（男色）という言葉も後に生まれる。



### 人権宣言の採択 1789年 (神権無視)





ロベス・ピエレー  
ジャコピン党の頭

「『母の乳房からもぎ取られた赤ん坊はジャコピン党員のほこ先からほこ先へと投げわたされた』。わずか10年の間に、おびただしい数の人間が殺された」大争闘上362

このジャコピン党の頭はロベス・ピエレーであった。彼は、イルミナチのアダム・ワイシャプトに育てられたのであった。言い換えると、ジャコピン党の父はアダム・ワイシャプトであったのだ。

イルミナチ/フリーメーソンの思想が生んだ残虐性は、筆舌に尽くすことのできないものであった。

これがフランス革命であった。

E.G. ホワイトは、驚くべき真理を150年前に宣言した：

「同時にまた無政府主義が、いっさいの律法を、一神の律法だけでなく、人間の法律までも廃しようとしている。富と権力の集中、多数の者を犠牲にして少数の者だけで富をにぎろうとする巨大な団結、自分たちの利益と権利を守ろうとする下層階級の団結、不安と暴動と流血の精神、フランス革命をひきおこしたのと同じ教えの世界的なひろがり、一こうしたすべてのことが、フランスをゆり動かしたのと同様の争乱に全世界をまきこむのに役立っている」教育269、

270

イルミナチの行動綱領は以下の5点になります。

- ① すべての既成政府の廃絶とイルミナチの統括する世界統一政府の樹立
  - ② 私有財産と遺産相続の撤廃
  - ③ 愛国心と民族意識の根絶
  - ④ 家族制度と結婚制度の撤廃と、子供のコミュニオン（自治体）教育の実現（※教育とは、ある意味、最も効果的な洗脳です。当時は学校による教育制度は整っておらず、各家庭で親が子供を教育するケースが多かったのです。しかし、それでは効率的な洗脳が難しいために、コミュニオンでの画一的な教育が必要だったでしょう）
  - ⑤ すべての宗教の撤廃
- これらの行動綱領が、のちの共産主義の原型となりました。
- イルミナチの基本戦略は下記の三つが主となります。
- ① 目的を達成するために、あらゆる政治的・社会的・経済的、その他の問題において、互いにいがみ合う陣営に分断させる。||分断して統治せよ||（分断と混沌）
  - ② 対立する陣営に武器を与え、お互いに戦わせ、弱らせ、その国民政府と宗教的組織を徐々に自滅に向かわせる。||両建て作戦（分裂と混沌）
  - ③ あらゆる政府の高い役職に就いている人々を支配するために、金銭的及び性的な賄賂を利用する。一旦、誘惑にのると、恐喝、経済的破壊の脅し、秘密の暴露、金銭的損害、殺害の脅しによって操作される。

上記はイルミナチ/フリーメーソンのマニフェスト（基本戦略）である。

人間の権利で、神の権利を放棄した。

彼らの主張は：

「人間の権利」である。

今日も我々の社会で聞かれるのは「人間の権利」ではないだろうか。「自由、平等、博愛、人権擁護」。これが国連の土台である。神ぬきの人道主義は、この地球の問題を解決できないどころか、ますます混乱と騒動に追い込んでいる。



マリー・アントワネット (1755 - 93)  
《フランス王 Louis 16 世の妃; Maria Theresa の娘; 革命裁判で処刑された》

上記の文をまとめてみよう：

- ① フランス革命をひきおこした同じ教えが全世界に広がる
- ② 神の律法だけでなく、人間の法律までも廃しようとする無政府主義
- ③ 富める者と貧者の格差の拡大—巨大な団結と労働組合の団結
- ④ フランスと同じ戦慄と争乱に全世界を巻き込む

フランス革命のことは、各時代の大争闘上巻の第15章「聖書とフランス革命」にかなり詳しく描写されている。

① 1775年のアメリカ独立戦争（革命）、② 1789年のフランス革命、③ 1917年のロシア革命、④ 中国文化革命、⑤ 日本明治維新等々…。

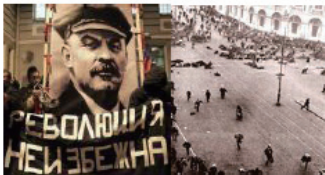
① アメリカ独立戦争



② フランス革命



③ ロシア革命



④ 中国文化革命



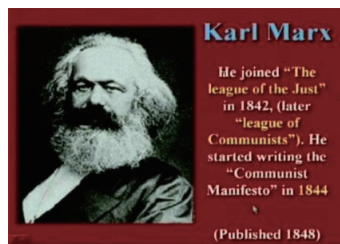
⑤ 明治維新



1842年に「正義の同盟（後に共産主義者の同盟）」に加入し、1844年に「共産党マニフェスト（宣言）」を書き始め、1848年に出版する。

### ロシアで共産主義誕生！

カール・マルクスは、「彼自身神秘主義者で、フリーメイソンでも高い階級にいた。ローマの最も有力なジュゼペ・マッッチーニとアメ



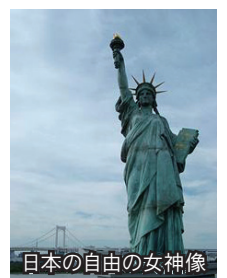
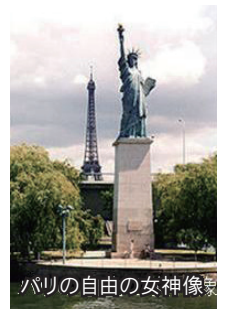
リカの憲法修正第14条の創設者である、最も有力なシュライナー（フリーメイソンの外郭団体である友愛結社）のアルバート・パイクと親交をかわしていた。イギリスの図書館でイエズス会の個人教師がついて「共産党宣言」を書いていた。ジョン・D. ロックフェラーとJ.P. モルガン（彼らもフリー



### 自由の女神は、フリーメイソンのシンボルである！

「ニューヨークの自由の女神像はフランス系フリーメイソンリーとアメリカ系フリーメイソンリーの間に交わされた贈り物という側面もあり、台座の銘板にはその経緯と紋章がぎざまれている」。Wikipedia

現在、ニューヨークにある自由の女神は、「アメリカ独立100周年」を記念して、フランスがアメリカに贈ったものであるが、そこに掲げてある銘板にはフリーメイソンのマークが、しっかり刻み込まれていたそう





だ（残念ながら今はこの銘板は取り外されているという）。

アメリカはフリーメイソンの国である。「アメリカの建国にたずさわったベンジャミン・フランクリンもジョージ・ワシントンもフリーメイソンであり、歴代アメリカ合衆国大統領のうち、ワシントンを含めて14人が会員となっていた」エンサイクロペディア。

イルミナチ/フリーメイソンの目的は、『新世界秩序』であることを覚えていよう！



### アルバート・パイク (1809～1889年)

白人主義を唱える秘密結社「K K K」の創始者であり、「黒い教皇」と呼ばれていた。1857年には、48歳にして秘密結社イルミナチの最高幹部（最高位33階級）にまで登り詰めた。

彼らの秘密は下の階級には知らされないと言う。第31級以上になって、はじめて知らされるそうだ。

※ 世界の歴史をこの陰謀論から見ると理解しやすくなる。歴史の流れがよくわかって実に面白くなってきた。特にアメリカの歴史が、日本の歴史が、……。



ビルダーバーグ会議、CFR外国問題評議会、日米欧三局委員会、慈善団体＝ライオンズ・クラブ、ロータリー・クラブ、ボーイスカウト他。

アダム・ワイシャプトはイエズス会士であり、イルミナチはイエズス会の隠れ蓑となったことについては前述した。イルミナチは、近代フリーメイソンを隠れ蓑としている。かつては秘密結社と呼ばれたが、今ではかなりオープンにしているところもある。

聖書の黙示録17章によると、全世界を惑わす「大淫婦」は「底知れぬ所から上ってくる赤い獣」に乗っていると描写されている。この女は、大背教した宗教権力をあらわす。この大淫婦を乗せている獣は何であろうか？

黙示録11章で、我々は「底知れぬ所から上ってくる獣」はフランス革命を起こした「サタンの無神論権力」であることを学んだ。これは、アダム・ワイシャプトが創設したイルミナチであることも学んだ。そのことについては、元世界総会牧師会長のR.A. アンダーソンも本を書いている。「ニューエイジ運動、イルミナチ、666」である。

イルミナチ/フリーメイソンの組織団体は、タコ足のようにある。図解してみよう。

下の図に見るように、イルミナチ/フリーメイソンは、多くの慈善団体を持っている。これらの慈善団体は上の偽善団体の傘下にある。世界を酔わせたマザーテレサの慈善事業や、それら一つ一つについてリサーチすると面白いに違いない。

少しだけ英文略字の意味を挙げておこう。国連は、誰もが知っている組織である。CFRは米外交問

題評議会、TCは日米欧三極委員会、FRBは連邦準備銀行、NATOは北大西洋条約機構、ECは今のEU(欧州連合)、CIAはアメリカ中央情報局、RIIAは王立国際問題研究所、FBIは連邦捜査局、

IMFは国際通貨基金、BISは国際決済銀行、WAWFは世界連邦主義者世界協会、WMWFGは世界政府のための世界運動、IOCは国際オリンピック委員会…。これらはみな世界政府をめざす組織の傘の下にある。

ビルダバーグ・クラブは世界を支配する陰のグローバル政府で、ニクソン大統領の時の



キッシンジャー元国務長官がオバマを推して、米国初の黒人大統領が誕生した。そのキッシンジャーが、最後の法王と言われているベネディクト16世にバチカンの政治顧問として<sup>ぼってき</sup>拔擢された。(YouTubeの動画を参照)。



## 第二部 世界を操る真の黒幕、最高の秘密結社はイエズス会



ビルダバーグ会議、CFR外国問題評議会、日米欧三局委員会、慈善団体＝ライオンズ・クラブ、ロータリー・クラブ、ボーイスカウト他。

第一部には、一般に言われている世界を操る陰謀組織について書いた。しかし、それらさまざまな組織団体は、表向きのものであって、真の黒幕についてはほとんど触れられていない。真の黒幕は、バチカン/イエズス会であることを明言してはばからない人たちが何人かいる。そしてこの結論を聖書と聖書以外の証言から証明してみる：

黙示録 17 章の「底知れぬ所から上ってくる獣」に乗って、それを操っている「大淫婦」は何であろうか。黙示録 11 章の「底知れぬ所から上ってくる獣」がイルミナチ/フリーメーソンであるなら、それに乗っている大淫婦は、ローマ・カトリック宗教権力であるから、法王教はついにこれらの秘密結社と合体して世に現れることを意味しているのではなかろうか。

真の黒幕は、聖書の預言、証の書から見るとバチカン/イエズス会であることは確かである。

陰謀者のトップ「頭」たる者は、上記した組織の全部の背後にいたのであり、それらのすべてをコントロールしている。そう結論付けていいものか、この点について調査し、その証拠を見てみよう。もちろん、本当の陰謀者（黒幕）は自分たちが誰であるかをあなたに知られたくはない。彼らは、これらすべての陰謀組織の後ろの真の力であることをあなたに悟られたくないのである。

ビル・ヒューズ牧師の本「敵の仮面をはがす」から引用してみよう：

「ローマ・カトリックの法王自身が、1773年に全世界で、イエズス会を廃絶しようとしていた。そこで生き残るために、イエズス会は地下にもぐるか、あるいはまだ働くのを許された3つの国に移動することを余儀なくされた：すなわち、イギリスとプロシア（ドイツ）とロシアである」。

『近代イルミナチは、ババリアの大学でアダム・ワイシャプトというイエズス会士によって創設されたことは揺るがせない事実であり、それはイエズス会の反宗教改革のセンターであった（ブリタニカ百科事典、第12巻、251ページ参照）』。

『（ドイツの）インゴルシュタットは、イエズス会が1556年に栄えていた中心地であった』（プロテ

スタント主義の歴史、Wylie著、第二巻、p413参照）。

もしワイシャプトが本当に、イエズス会を脱退していたなら、イエズス会によって管轄される大学で教授職を続けることが許されるはずがない。とんでもない！そんなことはあり得ない！（一般にワイシャプトは、イエズス会を脱退したと言われている）。すべての証拠は、彼はイエズス会のために働き続けたことを示唆している。彼は、イエズス会のためにイルミナチを組織したのである』（シドニー・ハンター、「アルバートは本物か」チック出版社、pp.21,22）。

『ルシファーの使徒、アダム・ワイシャプトは、ユダヤ人として生まれて、カトリックに改宗し、そして魔術にも手を付けた。彼は専門家になって、イルミナチというセクト（分派）を設立した。「このイルミナチのセクトは、1776年5月1日に設立された」—ニューエイジ運動のウィリアム・J・サットン、ニューエイジとイルミナチ666、The Institute of Religious Knowledge、p173。

『イルミナチの組織は、1776年5月1日に、イエズス会の砦であるババリアで公式に設立された。そこで30年戦争も口ヨラの子ら、イエズス会によって点火されていたのである』。—Eric Phelps, Vatican Assassins, Halycon Unified Services, page 214.

『イングロスタッドのイエズス会大学でアダム・ワイシャプトが、ババリアのイルミナチというセクトを発足させたと言われているが、しかしながら、それは名目上の創設者であって、このイエズス会組織に従属する役割を演じたように思われる』。Lady Queensborough, Occult Theocracy, Emissary Publication, p.313.

ワイシャプトは、イエズス会が後ろに隠れ、イルミナチが表向きの組織となるという特別な目的のために設立したのである。1773年にクレメント14世によって廃止されて以来、イエズス会はその事業を遂行するためにイルミナチとその他の組織を使ってきた。このようにして表向きの組織は、イエズス会によって起こされた問題の責任が彼らのせいにされるのであった。あまりに多くの表向きの組織を持っているので、人々は混乱させられるのである。実際はイエズス会が戦争、政策、政

治を操作し、問題を起こしているにもかかわらず、事実上誰が犯人なのかを知ることは不可能だと思わせている。イルミナチのようなこれらの表向き組織の多くは、イエズス会の方法とテクニックをただ単にコピーしているにすぎない。

アダム・ワイシャプトとイルミナチについて、ここまで我々が学んだことは次のようなことである：

1. 近代イルミナチは 1776 年 5 月 1 日に設立された。
  - ※ 5 月 1 日、メーデーは、ここから来ている。労働者が結束して権利要求と国際連帯の活動を行なう日。
2. イエズス会のとおりであるドイツのババリアから始まった。
3. イルミナチの組織は、イエズス会のカーボンコピーである。
4. ワイシャプトはイエズス会によって育てられ、そして訓練された。
5. 彼はイエズス会の大学、イングロスタッド大学でカトリックの教会法を教えた。

『1773年から1814年の間、法王クレメント14世によるイエズス会禁止の期間、イエズス会総長のリッキーは、彼の軍人、アダム・ワイシャプトと一緒にイルミナチを創設した。ワイシャプトは、フランス革命を起こしたジャコピン党をつくり、彼が近代共産主義の父である。…ロヨラの子らは、ドミニカの司祭を含めてすべての敵を罰した。そして彼ら自身とフリーメイソンの間の内輪の働きを完成して、ロスチャイルド家と同盟することによってイルミナチを作りあげた……。イエズス会総長は、スコットランドのフリーメイソン団体をコントロールしていたが、今やロスチャイルド家のメイソニック・バーロンとの同盟を求めた。これを達成するために、総長は、人種としては異邦人（ユダヤ人ではなく）であり、フリーメイソンと連合していたイエズス会士、アダム・ワイシャプトを選んだ……。1776年にワイシャプトはイルミナチを設立し、1777年にグランド・オリエント・メイソニック・ロッジと結合させた。彼は、ユダヤ人の巨大な金融帝国ロスチャイルド家と

国際富裕者と反ユダヤ人種秘密結社、異邦人イエズス会を結び付けた』。—エリック・フェルプス、「バチカン暗殺者」、Halcyon Unified Service, 206、205、213、215

イルミナチを作るために、ロスチャイルドがワイシャプトのために資金を調達したのである。上記のフェルプスは数回このことについてそれとなく言及している。ユダヤ人のロスチャイルドがイエズス会と手を取りイルミナチを作り、資金を供給したという主張をしているのは彼一人ではない。



『ワイシャプトはロスチャイルドからの経済支援により自らの組織を設立した後、イルミナチという名前を採用した。アダム・ワイシャプトが、ロスチャイルドに支援され、導かれ、イルミナチと呼ばれる国際革命軍を組織したのは1776年5月1日であった。そしてそれは、後に共産主義として知られるようになった』。—ウィリアム・サットン、「ニューエイジ運動とイルミナチ666」Institute of Religious Knowledge, p175、231.

『ロスチャイルド家が重要なユダヤ人であることに留意せよ。ユダヤ百科事典で調べると、彼らは「バチカン財務管理省・・・」という肩書を負っているのを発見した。ロスチャイルドの指示が黒いローマ教皇に絶対の金融の自由と秘密を与えたのである。一体誰がローマ・カトリック教会の富の謎に迫るために正統なユダヤ人を探ったことがあるだろうか』。—F.Tupper Saussy, Rulers of Evil, Harper Collins Publishers 160,161.



イルミナチの後ろ盾となっているロスチャイルド家の金融権力に大衆が気づかないように、その働きを隠すイエズス会とカトリック教会の隠蔽工作はほとんど完べきである。捜査人がある特定のイベントのルーツを追跡しようとするとき、手が届かないように隠すのである。

『奴隷制度へ転落』という本は、二つの世界大戦、いや三番目の世界大戦さえあったことを示している。

パイクは、その引用文の中で、イエズス会はシオニスト（イスラエルの地に故郷を再建しよう、イスラエル文化を興そうとするユダヤ人の近代的運動）とアラブ人の間に第三次世界大戦を起こす計画を立てていることを示している。シオニストたちは、合衆国と英国のように親イスラエルである。いわゆるテロ戦争は、アメリカと英国のシオニストに対してアルカイダ、イラクのサダム・フセインまた、その他のアラブ人を利用して戦争のために準備するというものである。イエズス会は、サダム・フセインが大量破壊兵器を備蓄しているという虚偽の主張をしていたように、嘘と欺瞞によってこの戦いに駆り立てたのである。この嘘は、イラクを侵略する以外に選択はないということをアメリカ国民に説得させる策略であったのだ。後に示すように、ジョージ・ブッシュは字義通り彼らの政策を遂行するために密接にイエズス会と共に働いている。

二人のブッシュ大統領は、イルミナチ系統であるエール大学のスカル・アンド・ボーンズ（骸骨と骨）結社のメンバーである。スカル・アンド・ボーンズ結社は、イルミナチの入り口である。これは2人のブッシュ大統領が同じくイエズス会のメンバーであって、彼らの計画を遂行していることを意味する。スカル・アンド・ボーンズ結社は、イルミナチ及び、イエズス会と密接に関係してきた (See Fritz Springmeier, Bloodlines of the イルミナチ, Ambassador House, pages 63, 320)。

イエズス会がアメリカ大統領をコントロールし

ているとすれば、我々は酔いから覚めなければならない！この偉大なプロテスタントの国が、イエズス会の命令を喜んで遂行する男のコントロールの下にあることを考えると目を覚まさないといけない時ではなかろうか！……彼は米国愛国法と安全保障法のような（憲法ではまったくこのような法律に対する制限を無視しているが）法律を通過させている。

大統領は、中東で戦争するように指示されていたのである。彼は、アメリカの多くの若い生命が失われるであろうことを知っていてそうしたのである。これこそ、アメリカ国民への故意の裏切り行為以外の何ものでもない！いつアメリカ人は目を覚まして、どんなことが彼らにされているかを察知するのであろうか？

では、世界を操っている真の犯人はユダヤ人であろうか。今日のメディアによる宣伝は、世界中で問題の真の扇動者はユダヤ人であると彼らに責任をなすりつけることに必死になっている。バチカン、ヒトラーがドイツでしたように、もしユダヤ人に責任をなすりつけ、ユダヤ人に世界の人々の憎悪の目をむけさせることができるなら、ユダヤ人は無慈悲にも排除されるであろうと信じている。

アヴロ・マンハッタンはこのように言う：

『ユダ人が何千年も抱いてきたメシアによる世界的神政国への期待は、カトリック教会の終末論的教えに対する致命的な脅威と考えられている。……このような考え方は、ライバルというだけでなく、無情な敵であると思われる』。Avro Manhattan, The Vatican Moscow Washington Alliance, chick Publications, pp. 169, 170.

イエズス会は、なぜ自分たちの計画を進めるために、その無情な敵であるユダヤ人を世界支配のために使うのであろうか？ イエズス会は、公けに自分たちが暴露されるようなことは何もしない。

もし彼らが犯人として認知されるなら、彼らは責任を負わされてその結果に苦しむであろう。し



かし、もし彼らがほかの誰かを世界の問題の原因として用いることができるなら、特に彼らが打破したい敵であるなら、同時に彼らの2つ目的を達成することになる。ユダヤは完璧なスケープゴートである。ロスチャイルド家は、ユダヤ人の覆いの下に働いているイエズス会の代理人である。1776年にイルミナチを設立することによって、うまい具合に陰謀の責任をユダヤ人になすりつけているのである。

次の情報源は、フランス革命の黒幕となって人材と資金の提供をしたのは、アダム・ワイシャプトとロスチャイルド家であったことを示している。

イエズス会士ワイシャプトと、ロスチャイルド家の人たちは、フランス革命を起こしたのは、イルミナチであるとして、人々の非難を向けることに成功した！

ユダヤの最前線下で働いている他のイエズス会士らに、FRB（連邦準備銀行）の会長、アラン・グリーンズパン、アーレン・スペクターとヘンリー・キッシンジャーが含まれている。

イエズス会によって使われていたユダヤ人によって多くのことがなされてきた。警鐘が鳴らされ、誰かが不正を訴えるとき、ユダヤ人は袋を持って立ちすくみ、責任を負わされている間に、イエズス会は見事に姿を消す。こういうことは過去400年を通して何度も何度も実際にあったのである。

イエズス会によってなされてきた多くの犯罪の責任が、イルミナチとユダヤ人に負わされてきた。

## 真の黒幕はイエズス会であることを 証言する人々

### ジョン・ダニエル

「ローマのイエズス会修道士が、プロテスタントの間に彼らの目的を達成するために最も壮大にして効果的な道具としてフリーメーソン団を完成したということは真実である。しかし、そのことは、完全に隠されたままで知られていない。暴露された大計画



### エリック・フェルプス

「バチカン暗殺者たち」の著者、ケネディー大統領の暗殺を20年間追いつけて、イエズス会の正体を暴露する第一人者。694頁の大著は、アメリカで話題となっている。



### ジム・アラビート

SDA信徒で写真家であるが、イエズス会研究の権威者の一人と言えよう。ローマ・カトリックの陰謀を暴いた。ビデオも多く作成している。LLTの創設者。



### ビル・ヒューズ SDA 牧師

「秘密のテロリスト」「敵の仮面をはぐ」の著者。世界最大のテロリストは、イエズス会であることを説く。ターゲットはアメリカ。イエズス会の意に抵抗する者は暗殺されていった。リンカーン、ケネディー、…。タイタニック号の沈没、第一次世界大戦、第二次世界大戦、世界貿易センター爆破事件等々にイエズス会が関わっていることを暴露。



### Dr. ウォルター・ファイト

アメージング・ディスクバリーズの主幹、SDA 独立伝道者、イエズス会 / イルミナチ / フリーメーソンの世界陰謀を詳しく暴露する。テレビ伝道、出版伝道。



### チャーリーン・フォーチ

カナダのSDA。図解入りダニエル書講解を書き表す。現代的な新しい情報を加えながら、新しい洞察で書き上げた。400頁の豊富な内容。世界政治を動かすイエズス会の陰謀。

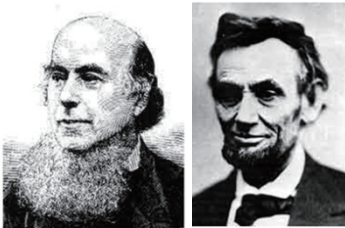
## アルバート・リベラ

元イエズス会の神父。イエズス会の恐るべき陰謀を知り、イエズス会を脱会し、チックパブリケーションにより、講演、書き物を通してイエズス会の陰謀を暴露した。数年前に故人となる。



## チャールズ・チヌキー

脱神父。かつて法律問題でリンカーン弁護士に助けられたことがあった。イエズス会の暗殺陰謀を大統領に告げた。



「20年間の最も困難な調査の結果、アメリカ大統領、アブラハム・リンカーンを暗殺したのは、神父たち、ローマのイエズス会士らによるということを、私は恐れなく発言するに至った」。—チャールズ・チヌキー、「ローマ教会における50年間」

「もし地球上にそして地獄に、永遠の罰に値する人間の組織体があるとしたら、それはこの口ヨラの協会である(イエズス会のこと)」。—ジョン・アダムス大統領



「イエズス会は民間の、そして宗教自由の命取りの敵である」。R.W.トンプソン(アメリカ海軍前秘書)

「あなたがたは毒ヘビのすみかである！ 私はあなたがたを暴露するつもりである。そしてもし人々が我が国の要職と銀行制度の不正行為とが分かったなら、夜が明ける前に革命が起こるであろう」。アンドリュー・ジャクソン1829-1897.

「私は我々の偉大な国の保全について心配している。外部からのよりは、内部から働いている狡猾な(陰險な)力が働いているからである」。ダグラス・マッカーサー元帥

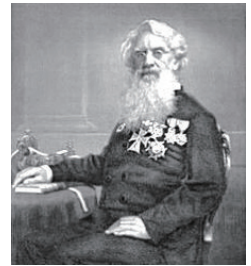
「内戦[すなわち、1861-1865年の南北戦争]は、決してイエズス会の邪悪な関与なしには起こり得なかったであろう」。アブラハム・リンカーン(1809-1865、第16代アメリカ大統領)

「国の発展と、我が国のすべての活動は少数の人間の手中にある。我々は支配された最悪の国の一つとなった。文明社会の中で最も完全にコントロールされ支配された一つとなった。……私は、イルミナチの教義と ジャコビニズム の原則が合衆国で広がっていなかったということを疑わざるを得ない」。Jedidiah Morse. エディア・モルス

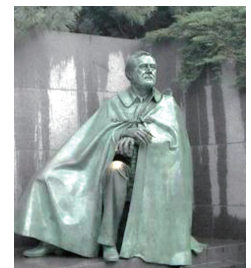
「大衆は、二つの世界大戦を起こし、進めたのはバチカンとイエズス会によるという驚くべき事実にはほとんど気が付いていない。すなわち、バチカンとイエズス会の譲渡、巨大な財源によってなされていると言えよう。イエズス会は、多くの面で力を持っているのである。特に最後の戦争ではそうである」。エドモンド・パリス(イエズス会の秘密の歴史)

「ローマの異端審問(宗教裁判)は…1542年以來、イエズス会によってなされてきた」。F. Tupper Saussy (悪の支配者の著者)

「イエズス会は、…メイソンのような秘密結社で、さらに反乱的で恐ろしく、何千倍も危険である」。サムエル・モルス(1791-1872、電信機の発明者、「米国合衆国の自由に対する外来の陰謀の著者」)



「アメリカにおけるイエズス会の働きと関与は驚くべきものである。ワシントンの真の支配者は、目に見えない、舞台裏で権力を行使する者たちである」。フェリックス・フランクフルター、米国最高裁判長(1882-1965)



「私はイエズス会から学んだものである。私が思い出す限り、レーニンもそうであった。世界は、ローマ・カトリック教会のヒエラルキー(階級構造)ほど優れたものを知らない。ナチ党のために、多くのことを取り入れた」。ヒットラー、エドモンド・パリスの「バチカン対ヨーロッパ」から引用



## 1981年にアルベルト・リベラ氏 (イエズス会脱会者) が暴露した、「コマンド」(階級に昇進するときに与えられるイエズス会誓約) の内容

「お前は、内部から平和な国々の間に妬みと憎しみの種を植え付け、流血の騒ぎを引き起こし、互いに戦争へと導き、また独立して芸術と科学を発達させながら平和を謳歌している国々や地方においては、革命と内戦を創りだすように教えられてきた」。



「戦争においては、自分の付いた側において、敵側についてイエズス会の兄弟と秘密裏に協力して働きながら、公には敵対していなければならない」。

「お前はスパイとしての義務を教えられてきた。それは、お前の地位から得られる全ての事実および統計の情報を集めるということだ。このためには、プロテスタントや異教徒の家系や全ての階級や組織の信用を獲得しなければならない。この中には、商人、銀行家、法律家、教育や大学関係者、議会及び立法関係者、法曹関係者および官僚も含まれる。そして、教皇のために『全ての人に対する全て』となり、かの人の僕である我々は死へと赴くのだ」。・・・抜粋：[Double-Cross: Alberto, Part 2, 1981]

イエズス会は米国、日本の両国において政府の最も近いところに学校を置いている。ジョージタウン大学は、米国の首都ワシントンDCに位置する。ここで、多くのブレイン、指導者が育成される。



日本では国会議事堂の最も近くに上智大学がある。



世界支配陰謀はあるか？ 秘密結社は世界の出来事にかかわっているか？ 策略というものがあるか？

イエズス会士たちに囲まれる法王ベネディクト16世



世界の出来事は偶然に起こっていると信じる者たちは、進化論者なのだ！すべて偶然に起こっているのであって、神の存在、悪魔の存在はない。目的もない、目標もない。

善と悪、キリストとサタンの大争闘もない。

預言の民は、この最後の大欺瞞に対して警告を発しているだろうか。

もう一度フランクリン・D・ルーズベルトの言葉を引用したい：

**「政治の世界では、何事も偶然に起こるということはない。もし何かが起こったならば、それは前もって、そうなるように謀られていたのだ。」**

### E.G.ホワイト：

「人類歴史の記録の中では、世界の諸国民の発展や諸帝国の興亡は、人間の意志や勇気に左右されているかのように見える。いろいろな事件の形成は、その大部分が人間の能力や野心やあるいは気まぐれによってきまるかのように見える。しかし、神のみ言葉である聖書の中には幕が開かれていて、われわれはそこに、人間の利害や権力や欲望の一切の勝ち負けの上に、また背後に、あるいはそれを通して、あわれみに満ちた神の摂理が、黙々と忍耐強くご自身の目的を達成するために働いているのを見るのである」。教育205



## イエズス会について：

「プロテスタント主義は、全キリスト教国において、恐るべき敵に脅かされた。改革事業の最初の勝利は過ぎ、ローマはその全滅を期して新たな勢力を奮い起こした。このとき、法王教の全闘士中、最も残酷で無法で強力なイエズス会が創設された。彼らは、世俗のきずなや人間関係から切り離され、人情も理性も良心もいっさいを無視して、彼らの会以外のどんな規則もきずなも認めず、ただ、その権力を伸張することだけを義務とした。キリストの福音は、その信者たちに、危険を冒し、苦難に耐え、寒さ、飢え、労苦、貧困にもめげず、真理の旗をかかげ、拷問も投獄も火刑も恐れぬ力を与えてきた。この勢力に対抗するために、イエズス会は、その会員を狂信的にさせ、同様の危険に耐えるように、またあらゆる欺瞞の武器をもって真理の力に対抗するようにさせた。彼らは、どんな犯罪を犯しても罪にならず、どんな欺瞞を行なってもかまわず、どんな偽装もわけなくできた。彼らは、一生の間貧困と質素な生活を送ることを誓ったが、その目的とするところは、富と権力の獲得であり、プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興することであった。

彼らは、会の会員として活動するときは聖衣をまとい、牢獄や病院を訪ねて病人や貧者に奉仕し、世俗を捨てたことを公言し、よい働きをしながら巡回されたイエスの清い名を帯びていた。しかし、この潔白な外観のかげに、しばしば、極悪非道な目的が隠されていた。目的は手段を正当化するというのが、会の基本原則であった。この規定によって、虚偽、盗み、偽証、暗殺などは、教会のために役立つならば許されるだけでなく、賞賛す

べきものであった。さまざまな偽装のもとに、イエズス会の会員たちは、国政にまで手を伸ばし、国王の顧問の地位について、国家の政策をまとめた。また、人々の様子を探るために、そのしもべとなった。彼らは、王侯、貴族の子弟のための大学を設立し、一般の国民のための学校を建てた。そして、プロテスタントの親の子供たちは、カトリックの儀式を守るように影響された。ローマ・カトリックの礼拝の華麗な様子は、心を混乱させ、想像力を眩惑し魅惑した。こうして子供たちは、彼らの父たちが苦難と血によって得た自由を売り渡してしまった。イエズス会は、ヨーロッパに急速にひろがった。そして、彼らの行ったところは、どこでも法王権が勢力を回復した」。大争闘上293-294

「この大欺瞞者が最も恐れていることは、われわれが彼の策略を見破ることである。彼は自分の正体と目的を巧みに隠すために、嘲笑、あるいは軽べつぐらいはよいが、それ以上の激しい感情を人々に抱かせないように、自分を描写させている。彼は自分が、こっけいな、あるいは胸の悪くなるようなもの、ぶかっような半獣人として描かれることを好む。またサタンは、知力と世知にたけていると自認する人々が彼の名を嘲笑し冷やかすのを聞いて、喜ぶのである」。大争闘下258

「真理と誤謬との間の争闘の様相を解明すること、サタンの策略を明らかにし、これに抵抗して勝利する方法を示すこと、神は正義と慈愛をもって被造物を取り扱われるということが明らかになるよう、罪の起源とその最終的処置に関して光を投げかけつつ、悪という大問題に満足のゆく解決を与えること、そして神の律法が聖であって不変のものであることを明示すること—これらが本書の目的である。人々が、本書によって、闇の力から救われ、『光のうちにある聖徒たちの特権にあずかるに足る者』となり、われわれを愛し、われわれのためにご自身をささげられたかたを賛美するようになることを、著者は心から祈っている」。大争闘上序(10)

「わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを捨てて、わたしの祭司としない。あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる」。ホセア4:6

ウォルター・ファイトの証

# 我が波乱万丈の人生

井上 千里 訳

## ウォルター・ファイト

ウエスタンケープ大学（南アフリカ）、動物学部主任教授。

現在の研究分野は栄養生理学で、栄養と疾病の関係について、多くの研究結果を科学雑誌、国際学界で発表している。また健康、創造論、聖書の預言に関する著書多数。

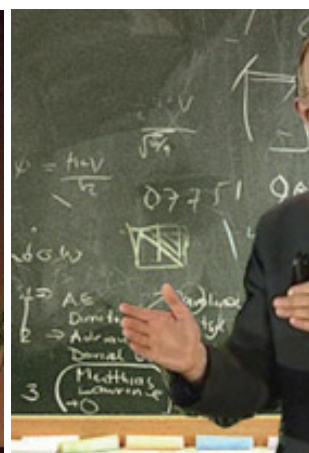
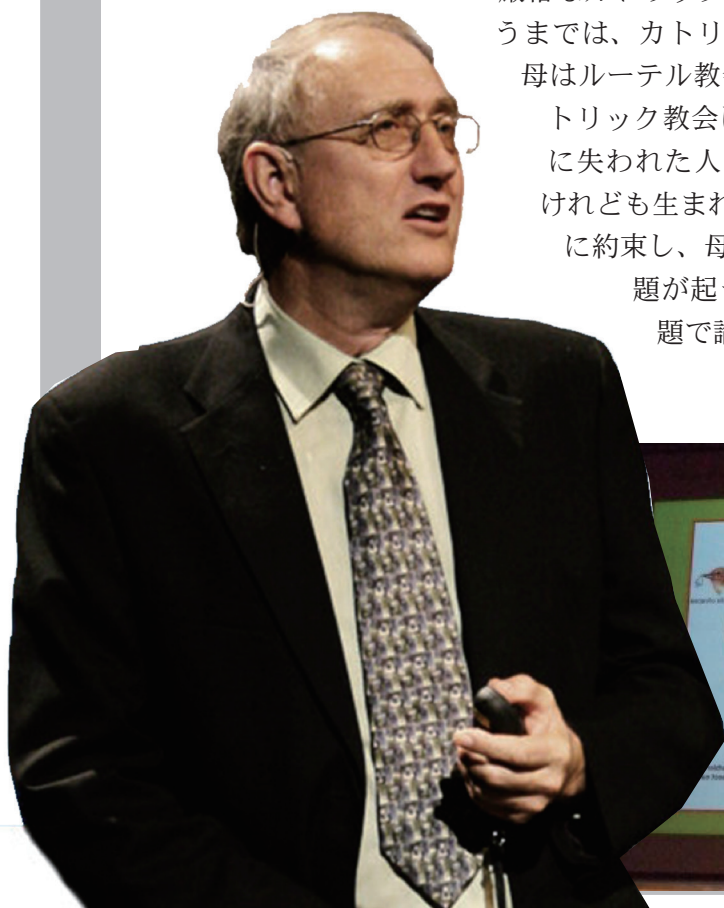
アメージングディスカバリーズの講演者、公衆伝道者としても、アフリカ、カナダ、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリアの各地で講演を行っている。黙示録の預言と現代の出来事を説明した36回に渡って行われた講演は、DVDに収録され、現在何カ国語にも訳され販売されている。

「あなたのお母さんは、地獄へ行くのよ」。宗教のクラスの先生は何度も繰り返し私に言いました。

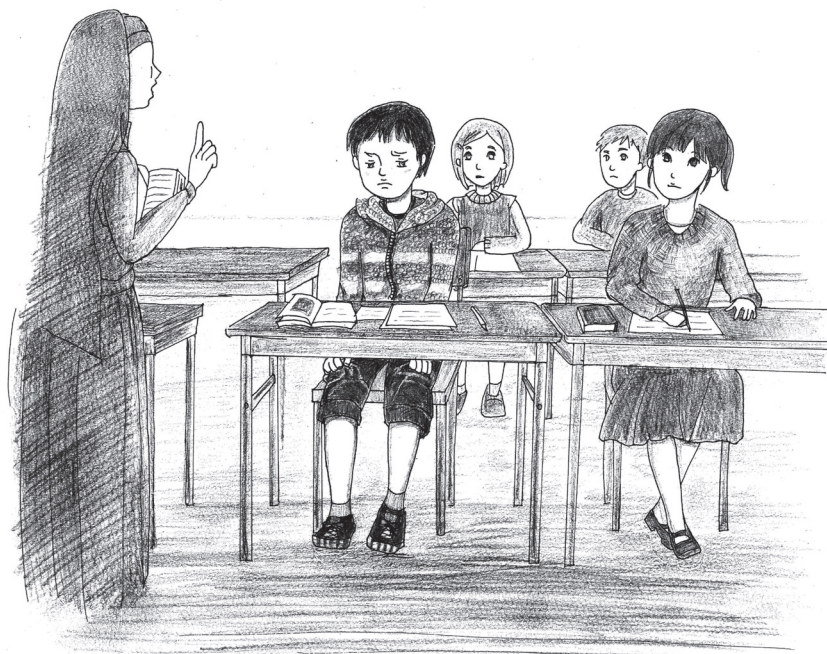
「そして、お母さんは、地獄で永遠に苦しむのです」。この言葉を聞いた私は固く決心しました。もし、神様が存在しているとしても、そんな神様なんて大嫌いだ。神様は愛だってみんな言っているけど、こんなに信仰熱心なお母さんに、どうしてそんな恐ろしい懲らしめができるんだ！ 私が10才になった時には、すでに神様の存在など全く考えるのも嫌な無神論者になっていました。

厳格なカトリック信者であった父は、若くて愛らしいドイツ人の母と出会うまでは、カトリックの聖職者として、一生を送る決心をしていました。

母はルーテル教会の信者でした。当時はバチカン第二公会議以前で、カトリック教会は、ルーテル教会の信者を、天国に行く望みのない完全に失われた人々だと見ていましたので、結婚には困難を伴いました。けれども生まれてくる子供をカトリック教徒として教育することを教会に約束し、母も了承の上で結婚しました。結婚後、教会内で何度か問題が起きたものの、家庭内では、両親は一度たりとも宗教の問題で論争になることはありませんでした。



私が8才になる直前に、悲劇が私たちの家庭を襲いました。母が余命2～4ヶ月の癌と宣告されたのです。揺るぐことのないルーテル教会の信仰を持っていた母は、その宣告後、4年も生き延びることができました。母が手術に次ぐ手術、放射線療法などで苦しむ姿を見ていることは、私の人生の中で最も悲惨な日々でした。ほとんどの幼い少年と同じように、私はとても母親っ子でした。なぜ神様はお母さんにこんな苦しみを許されるのだろう、といつも大きな疑問を持っていました。



私は、南アフリカにあるドイツ系のルーテル教会付属の学校に通っていました。学校側は、私や他のカトリック信者の子供のために、宗教のクラスの教師として、修道女が毎日学校に来ることができるように手配していました。彼女はカトリックの信条ばかりを教えることにとっても熱心でした。死が間近い母親を毎日見ている私にとって、彼女の授業はあまりにも耐え難い時間でした。

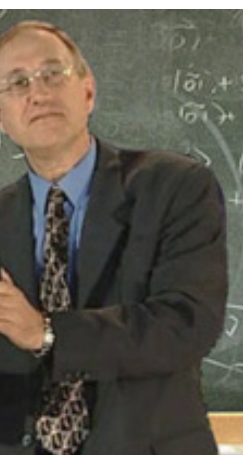
「あなたのお母さんが、天国に決して行くことができないプロテスタントであるというのは、とても悲しいことです」。そして次の言葉はいつも決まって、「お母さんは、地獄で永遠に苦しむのです」と、宗教のクラスの修道女は、何度も繰り返し私に言いました。もうお母さんは病気で十分苦しんでいる、愛の神様がなぜもっと苦しみを私のお母さんに与えることができるんだ！ と心の中は、疑問と悲しみで一杯でした。私は、父親と毎週カトリック教会に出席し、良いカトリック信者と言われるためにすべきことは、すべてを行っていた模範的な信者でした。けれども、学校の修道

女が、母親が地獄へ行くということをくどくどと何度も繰り返すので、私の怒りは募るばかりでした。ある日、必死に抑えていた怒りはついに爆発しました。クラス中に自分のカテキズム(カトリック公教要理)をバラバラに引き裂き、ののしりの言葉と共に修道女に投げつけました。

## 追い出される

私はすぐにクラスから追い出されました。そして、それからは他のクラスの教師とも問題を起こすようになり、反抗的で、無礼で、全く手に負えない生徒になりました。私の机といすは外に置かれ、木の上に登っては、下を通る教師に松ぼっくりを投げつけました。そして鞭で打たれるたびに、反省の気持ちなど微塵も見せずに言うのでした。「あともう一回打ってくれる？そしたら裁判所に先生を訴えられるんだけどな」。

最愛の母は、私が12才になってすぐに亡くなりました。父はその後再婚しましたが、継母との関係は良いものではありませんでした。私の問題行動は、学校、そして家庭で益々大きくなり、とうとう学校から退学を命じられました。両親は、私が家から離れた職業訓練校に行くことが最善であると考えて、すでに手続きをしていました。違う、これは自分が行きたい道ではない！ と、こ



の時に初めて我に返りました。私は親類を説得して、そこから他の学校へ通うことにしました。あちらこちらの家を転々としたものの、その時以来、学校では全く問題を起こすことはありませんでした。

高校を卒業し、南アフリカのケープタウン総合大学へ入学し、動物学を専攻しました。この大学は宗教を基礎としている大学で、神学のコースもありましたが、科学の教師陣は、驚くほど非宗教的で、進化論の擁護者達でした。

## 進化論による解決

私が学んだすべてのクラスの教えが、進化論の上に成り立っていて、またたく間に、すべての進化論の理論を習得しました。これが今までの私のすべての問題を解決してくれる答えだと喜び、やっと解放感を得たように感じました。私の母親は地獄で焼かれることはない、地獄なんてないからだ。天国もない、神もない！

両親との関係があまり良くなかったために家に帰りづらい私を、大学のルームメイトは、週末や休日の度に彼の家に招待してくれました。そこで私はとても魅力的な彼の妹と出会いました。私は彼女に、あなたはあなたのお兄さんよりももっといいルームメイトになれると説得し、私たちは結婚しました。

私は無神論者でしたが、妻は私とは全く違った環境で育っていました。彼女の父親は新聞記者でしたが、ある時、アフリカ内で起こっているオカルトの事件を、様々な角度から調査する役割が与えられました。初めは彼も、オカルトによる超自然的な出来事など全くふざけた話だと考えていました。けれども調査をしながら深く関わっていくにつれて、見えない何者かの手が彼を掴んでしまうと、どんどんオカルトの世界にのめり込んでいってしまいました。その時から彼の家に奇妙な出来事が起こるようになってきました。彼の持っていた杖は勝手に動き回るのが常でした。食器棚からお皿が勢いよく飛び出し壁に当たって壊れたり、子供が眠った後

でもベットの下に置いた靴だけは家の中を動き回るなど普通ではありえない現象を、妻は日常のこととして見ていました。父親はアフリカの魔術や、ニューエイジについての本を書くようになり、オカルトの世界では高い位に就きました。彼の再婚相手も、どのように神になるかということをお話しているニューエイジのリーダーでした。ところが後に、彼らの影響が私たちにまで及んできました。

## 教師として

結婚後、私は動物学の博士号を取得し、南アフリカのステレンボッシュ総合大学の講師として任命されました。私の生活のすべてが進化論中心でした。進化論を教え、研究の基礎、調べる文献のすべては進化論でした。神の存在など考えることもありませんでした。もし誰かが神について話そうとするものなら、私の内にある何かが火のように燃え上がるのを感じるのでした。

300人もの新入生を前に、進化論の講義をしていた時の事です。一人の若い女生徒が突然立ち上がりました。「授業中失礼ですが、先生のおっしゃっていることは偽りです。神様が六日間で天と地を創られました。彼はこの宇宙の創造主です」。

私は怒りを抑えることが出来ませんでした。そしてあなたが想像も出来ない位、この若い女生徒を猛烈に攻撃し、彼女はとうとう座って泣き出しました。上出来だった。と私は思いました。なぜなら生徒たちは、創造論を信じるのがどんなに愚かな事かを雄弁に語った私に感動しながら教室を去って行ったからです。

研究室に戻った私は意気揚々としていましたが、その気持ちは長く続きませんでした。心の片隅から聞こえてくる小さな声に悩まされ始めました。「あんたは意地悪だ、よくもあの若い生徒を攻撃し、恥をかかせられたものだ！」私はその声から逃れることができず、しばらくとても落ち込みました。



その頃、私の妻は三人目の子供を妊娠していましたが、同じ頃、義父が私たちの家の隣のアパートに越してきました。オカルトと深く関わっていた彼の影響は、私たちの家庭に大変な問題を持ち込んだようでした。私の妻は妊娠期間中に様々な問題を抱え、病院の入退院を繰り返していました。瀕死の状態にまでなり、医師に子供を諦めるように何度か勧められましたが、私たちは最後まで諦めることができませんでした。そしてついに男の子を無事に出産することができました。

## 夢

母子共に病院を退院した後のある夜のことで、私は絞め殺される夢を見ました。それはちょうど夜中の2時で、驚いて起き上がった時にひどい冷汗をかいていました。私の胸の中でだれかがドラムを叩いているかのように心臓がドキドキしていました。その直後です、となりの部屋で寝ていた赤ん坊が今にも殺されるかのような声で泣き叫びました。妻と私はすぐに部屋に駆け付け、子供を抱き上げました。

「なんでこの子はこんなにひどく震えているんだ?!」私が尋ねると妻は叫ぶように言いました。「ひどい熱!このままだと死んでしまう!」

すぐに病院へ行くと、子供は冷却用のテントに入れられ、点滴が始まりました。幾時間もきわどい状態が続きましたが、やがて熱は下がり、退院することができました。

不気味でした。4週間足らずが過ぎましたが、私は何度もきっかり夜中の2時に飛び起き、妻に大声で叫ぶのです。「また絞め殺される夢を見た!」そしてすぐとなりの部屋で寝ている赤ん坊が泣き叫ぶのです。彼の熱はあまりに急激に高くなるために意識を失ってしまうほどでした。病院に着くまでに子供は死んでしまうかもしれないと、何度も思いました。病院では医療スタッフが子供の命を救うために懸命な努力をしてくれました。

## 取り付かれる

これらの出来事は頻繁で、実際に病院は私たちをいつでも受け入れられるように、冷却用の装置を常に準備していた位でした。医師は何が原因でこのようなことが起こるのか全く説明することができませんでした。ある日医師が言いました。「驚異だよ、あなたの子供はまだ1才にもなっていないというのに、大人4人で押さえつけなければならなかった。子供は何かに取り付かれているに違いない」。

頑固な無神論者でさえようやく何かを考え始めました。何週間も、何ヶ月も同じ出来事が起こるといことは、この二つの出来事はつながっている。病院で息子のベッドの傍らに座っていた私は、すべての出来事を振り返ってみました。医師が治療法がないと言っているということは、現代の医療では解決できないらしい。いったいこの問題を解決してくれるところをどうやって探せばいいというのだ?この出来事はおそろしい夢と何の関係があるのだろうか?義父が入り込んでしまったオカルトの影響なのだろうか?

ローマ・カトリック教会は、悪魔を超える力を持っているかもしれない、と思い立ちました。以前通っていた教会に戻って助けをお願いしてみようと決心しました。

次の日教会で、ブランデーの酒ビンを片手にした司祭を見つけました。それほど酔ってもしない様なので声をかけました。「私はローマ・カトリック教会の信者なのですが、今はもう教会に行っていません」。彼は私を見て答えました。「そう、それで何か問題ですか?」「私は科学者であり無神論者です」。どもりながら続けて言いました。「何て言ったらいいのかわからないのですが、私の家でとても奇妙なことが起きているのです。」「ちょっと待ってくれ!」彼は私を止めて言いました。「その問題には関わりたくないんだ、私の分野ではないんでね。名前と電話番号を教えてください、だれかに折り返し連絡させるから」。

それからすぐに、上品で知的な感じのする他の司祭から電話を受け取り、彼の指示で修道院で会うことになりました。

## 感銘を受ける

私は約束の場に行く為に急ぎました。彼を見たたん、何て素晴らしい人だろうと思いました。とても優しく目を見ながら、「あなたは家庭で問題を抱えていますね。悪魔はあなたの息子を殺そうとしています。そしてあなたも脅されているのです」。私は啞然としてポカンと口を開けていました。「私はこの事はだれにも話したことがないのに、なんでそんな事がわかるのですか?!」と思わず強い口調で尋ねました。「どうやって私が知ったかなんて何も気にすることではない。それよりこの問題はとても深刻だから悪霊を追い払うためには一番高度な方法を使わなければ、つまりあなたの家でミサをしなければなりません」。彼は続けて言いました。「主教の許可なしに個人の家でミサを行うことは違法なんだが心配しなくても大丈夫です。私はすでに許可をもらってきていますから」。司祭は、私の家でミサをするために必要な許可書を私に見せてくれました。それには主教のサインが書かれていました。どうしてこんなことができるんだ！ 私は平静を装っていましたが、頭の中は混乱していました。今までだれにも家の問題を話したことがないのに、司祭はすべてを知り、その対処方法まで手配されているなんて！

「よくわかりました。どうぞ私の家においでくださり、何でも必要な事を行ってください。そして私は続けて言いました。「お知らせしておきたいのですが、私は無神論者で、もう教会には何年も行っていません」。

司祭は言いました「あなたは、もう無神論者ではいられなくなるはずですよ。奥さんはどうですか」。

「彼女はカトリック信者でさえありません。オランダ改革派です」。

「何も問題はありません」と彼は私に保証してくれました。

## 悪魔払い

私たちが家に着くと、妻も私と同じように司祭の人柄に感銘を受けました。司祭は家の中を案内するように言いました。彼は子ども部屋の前で立ち止まり、「ここはあなたの家の中で最悪の部屋ですが、あなたの家中悪魔払いをする必要があります。水を少し持ってきてくれませんか」。と言いました。彼は水に「聖なる塩」というものを加え、水の中に指を入れて十字を書きました。そして出来上がった「聖なる水」を持って家の中を歩き始めました。家中のすべてのドアと窓に、指で十字架のマークを付けていきました。司祭は悪魔払いの権威者であった聖人の遺品だという指輪を私に見せてくれました。彼がミサを始めると、何匹もいた私の家のペットが、一斉に勢いよく走ってきて私たちの足元に座りました。わあ、不気味だ、いったいこれから何が起こるんだ？

ミサが終わると、ルルド(フランスのカトリックの巡礼地)の魔よけのお守りを司祭から渡され、子供たちのベッドの上に掛けておくように言われました。最後に按手の十字架を外し、「これを赤ん坊のベッドの上に置いておきなさい、悪魔が小さな子供を殺してしまうのは耐え難い事だから」と言って帰りました。

私と妻はこれからどんな事が起こるのか、不安な気持ちで夜が来るのを待っていました。いつもは、子供を寝かせようとすると激しく泣くのですが、その晩はベッドに入れると何度か寝返りを打ち、そのうちに仰向けになって安らかな寝息をたてて眠ってしまいました。彼が一晩中眠り続けたのは、生まれて初めてのことでした。次の日も、次の週も、その次の週もです。そして私の悪夢も全くなくなりました。

頑固な無神論者で、科学者でもある私は、この事実によどのような立場を取ったらいいのでしょうか。これからどうすればいいのでしょうか。教会は私の家庭の大きな問題を解決してくれました。それでも「神などいない」と言い続けるのでしょうか。私はこの問題を解決してくれた神様に対して何か責任があるのでしょうか。私は妻と共にどうすべきかということは何ヶ月も悩み、考え続けていました。

ついに私は妻に言いました。「やっぱり選択の余地はないよ、教会に戻るよ」。そして教会に通い始めたものの、私はいつも自分に問い続けていました。本当に自分は神を信じているのだろうか？よくわからないなあ。

## 大工との出会い

ある日急に思い立って、我が家の台所をリフォームすることにしました。そのためにドイツ人の大工を雇いました。彼が我が家に来た時に乗っていた車のバンパーに「親方はイエス様」と書いてあるステッカーが貼ってありました。詳細を話し合い、仕事の契約をした後に彼は言いました。「ところで私は神と共に人生を歩んでいる者です」。私は怪訝な顔をして意地悪く言いました。「あなたはどうぞ神と一緒に生きてください。私はただリフォームをして欲しいだけですから。それだけです！いいですね？！」

「そうします。でもこれをあなたに差し上げたのです」と言って、一枚のパンフレットを手渡しました。私は一応受け取りましたが、読まずにすぐに引き出しの中に入れてしまいました。

私は忠実に毎週教会に通い続けていました。そこで以前から気になっていた進化論のことを司祭に尋ねてみました。彼は言いました。「我々が進化して今存在しているのは常識だよ」。すばらしい！と私は思いました。なぜなら進化論をこれまでどおり教えながら、神も信じることができるのです。それからはとても気が楽になってきました。

## 疑問

カテキズム（カトリック公教要理）を読むにつれ謎が生じてきました。なぜ神様は同じ儀式を何度も何度も要求されるのだろうか？毎週行われる聖体拝領の儀式にとっても困惑し始めました。なぜ同じ祈り、同じ儀式を繰り返すのだろうか？聖変化（聖餐のパンとぶどう酒をキリストの肉と血に変化させるという儀式）の教義に戸惑い始めました。司祭がパンとぶどう酒をキリストの体に変える力など本当にあるのだろうか？

ある日、私は誰もいない教会堂に入り、後ろの座席に一人で座っていました。前方に見える箱に小さな赤いライトが点滅していました。それは聖体拝領のパンとぶどう酒が入っているというサインでした。この事実が突然私を悩ませ始めました。神様をこの箱の中に閉じ込めているのか？！

箱の中に神を閉じ込めているという思いは、私をととても苛々させ、更に怒りの気持ちさえ沸いてきました。

でも神様は絶対ここにいる！私はもがきました。私の家庭の変化を見ればわかるではないか、今は平和だ、妻はカトリックに改宗する決心までしている。私はすでに妻がカトリック教会に加わるように司祭に手続きをお願いしていましたが、なぜか様々な理由で延期になっていました。

私は頑張って祈ってみました。「神様、どこにいらっしゃるのですか？私はあなたのことを全く知らないのです」。誰もいない教会の座席に座っていた私はついに言いました。「神様、あなたが本当にいらっしゃるのなら私にお示し下さい」。気持ちが落ち着いてから家路につきました。家に帰るや否や引き出しをかき回し、一年前にドイツ人の大工に手渡されたパンフレットを取り出しました。私は彼が言った「神と共に人生を歩んでいる」という言葉を思い出して心の中で笑いました。

## 戒め

パンフレットは三つの部分に分かれていて、一般の聖書、ルター訳、そしてカトリック訳の十戒が、比較できるように並べられていました。神の戒めをローマ・カトリック教会がどのように変えているのか、そして聖句を用いながらどのようにして変えていったのかということが説明されていました。なん

てくだらないことを書く人がいるのだろう、と思いました。

私の家にはたくさんのカテキズムがありましたので、一つを手にとって十戒の書かれている所を開いてみました。パンフレットに書かれているものと全く同じでした。私は妻を呼んで言いました。「聖書を持ってきてくれないか！」彼女は言いました。「私たちの家には聖書なんてありませんよ」。こんなに長く教会に行っているのに一冊の聖書も家がないということに今更ながら驚きました。その時、知り合いの老婦人から、たくさん本の入った箱をもらって車庫に置いてあることを思い出しました。普通のおばあさんは、たいがい聖書を持っているはずだ、と妙な思い付きをしました。けれどもその通り、箱には聖書が入っていたのです。

出エジプト記 20 章を開きました。十戒はカテキズムに書かれているものと違っていました。これを見た私は困惑してしまいました。私はすぐに大工に電話をしました。「去年あなたに台所をリフォームしてもらった者ですが、覚えていますか？」「もちろんです。なぜかわからないのですが、今日一日あなたに電話をしようと思っていたのです」。大工は私の家に来てくれることになりました。



彼が来た時、聖書とカテキズム両方の十戒の部分が開かれていました。私は彼が来るなりすぐに質問をしました。「なんでこんなに違うんだ？」

## 聖書研究

彼はダニエル書 7 章の預言の部分から説明を始めました。私たちはその日、夜中の 3 時頃まで聖書を研究しました。次の日、そして次の日も彼は来てくれました。3 日間でダニエル書、黙示録の殆どをカバーしました。彼は王や国、そして異教の起こりなどの歴史的な出来事を教えてくれました。私は興味深い説明だ、でも彼の言葉を鵜呑みにはできない、と思いました。じっくり考えた末、自分自身で調べて解決しようと決めました。

大学の図書館に行き、歴史と神学の分野で私が見つかることのできたすべての資料を借りて来ました。大工が聖書から示してくれたバビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ、ローマ、そして 10 に分かれたヨーロッパの国々が続くということがすぐに真実であることがわかりました。私が歴史的に調べて、ダニエル書 7 章の小さい角が、ローマ・カトリック教会以外の何ものでもない気付いた時は、本当に大きなショックを受けました。

この考えを確かにしたいために、小さい角がアンティオコス・エピファネスであるとの視点からも調べました。けれども聖書の基準には全く当てはまらないのです。公平を期すために、教会の司祭に私の家に来て説明してもらえようお願いしました。

私と妻はダニエル書の預言の章を開き言いました。

「一つの大きな権力が起こり、神の戒めを変更することを企てると聖書は明白に述べています」。司祭は私たちを見ながら言いました。「私はこの問題についてあなたたちとお話することはできません。私は聖書に興味がないものだから」。私は絶句しました。あなたは司祭でありながら聖書に興味がない？ 彼は続けて言いました。「教会に預言の専門家はいますよ、まあ私には意味がなくて理解できないことですがね」と言いながらさっさと帰ってしまいました。

私は他教会の牧師を次々に家に招きました。そして小さい角の聖句にくると決まって、「それはアンティオコス・エピファネスです」と言うので、いつも対抗して次のように言わなければならないことになるのです。「牧師様、そうであるはずがないのです。なぜなら小さい角はローマの後に起こっています。ギリシャの時代ではありえません」。このディスカッションが始まると、いつの間にか牧師達は立ち上がり、すぐに去ってしまうのです。その度に私は以前にも増して確信するのです。小さな角の権威はローマ教会以外の何ものでもない、と。

## ジレンマ

これは私にとって大きなジレンマでした。聖書の預言にローマ・カトリック教会はキリストに反した働きをしていると書かれているのに、日曜日毎に教会に通い続けるべきなのだろ

うか？ ところがさらに厄介なことを大工が言い出したのです。彼は安息日について話し始め、安息日に関してのすべての聖句を私に示しました。

「ばかげてる！ どうしてたった6日間で天地、海を創造したという神の戒めなんかを守ることができるんだ？ 科学の真実ではこの世に存在しているすべてのものは、何億年もかけて進化して出来たんだよ」。

大工は進化論ではなく、神がすべてのものを創造されたと微笑み言うのです。クラスでやり込めた女生徒の顔が浮かんできました。そして大工に向かって言いました。「6日間の創造論は全くばかげたおかしな考えだ」。大工は言いました「創造論が真実であることを証明するよ」。「結構なことだ、試してみるがいいよ」と私は言い返しました。

次の日、大工は両手で抱えられないほど山積みされた創造論に関しての本を私の所に持ってきました。大学での講義の合間に、彼の持ってきたすべての本に目を通しましたが、大工に本を返す時に言いました。「紙くず同様だ」。けれども彼は反論してくることなく、再度山積みの本を持ってきました。すべての本に目を通した私は、「全部非科学的で、人を混乱させるだけの内容だ。君は地球平面協会に属しているんだね」と皮肉たっぷりに言いました。

大工が、「神が創造者だ」と言う度に、私は科学の論法で彼の言い分を圧倒することが出来るのです。私はすべての専門用語を知っている進化論者です。創造論を一掃できるような理論を証明できるように訓練されてきているのです。

私との会話にフラストレーションを募らせた哀れな大工はとうとう言いました。「私は創造論に関しては何の疑問も問題もない。問題を持っているのはあなただ！ 自分で解決するがいい！」

## 個人探求

これがすべての始まりになりました。私はあなたが想像もできないような仕方で聖書を研究しました。それは聖書がたった2ヶ月でボロボロになり使えなくなるほどでした。妻は言いました。「安息日は私には何の意味もないし、あまりにもおかしい考えだわ」。

ある日、私の大学の部門の秘書から分厚い資料を手渡されました。講義の合間に目を通すと、安息日とセブンスデー・アドベンチストに反論する論文でした。驚きました。なぜなら私たちが安息日の問題で格闘しているということは誰も知らなかったからです。私の同僚は皆、進化論者です。私が宗教のことを考えているなどとは口が裂けても言えない様な職場でした。

私は進化論の事で苦闘している最中だったので、この資料を妻に渡して言いました。「これに目を通してくれないか。何か解決策が見つかるかもしれないから」。私は創造論、そして妻は安息日の事でそれぞれ格闘する日々が続きました。

ついに全ての資料を読み終わった妻が言いました。「私はこの資料によって、安息日が正しいということを確認してしまいました。この声明のひとつひとつに聖書の言葉を比較させました。そして神の言葉が明瞭に教えていることに反論する人間の言葉はすべて消されてしまうのです」。この安息日に反論する論文は、彼女にクリスチャンが守るべき日は安息日であることを証明してしまったのです。

「これは大問題だ」と妻に言いました。「この世界が少なくとも6億年かけてできたというのはこの世の常識なのに、6日間の創造の記念日なんてとても守れないよ」。

安息日と創造論のことで悪戦苦闘の最中で、特に進化論に関しては全く答えのない状況でしたが、ついに次のように祈りました。「神様わかりました、もしあなたが存在していて、進化論の考えが間違いならば、私は信じ教えますからどうぞ必ずお示してください」。

## 祈りの答え

私の大学は、南半球では最大数の進化論に関する蔵書を所有していましたので、すぐに図書館に行き、ある一冊の本を借りました。帰り際に同僚が私を呼び止め言いました。「なんでその本を借りるんだ、新版が出たばかりなのに」。そこで私は図書館に戻り最新版も借りました。

私は二つの本を同時に一ページずつ比べながら読み進めました。旧版には、鯨類の進化に大きな間があると書かれていましたが、新版では、科学の専門用語をふんだんに取り入れた新しい理論を作り、問題点を撤廃しているのです。私は進化の過程について次々に調べ始めました。旧版はいつも解決できない問題があると書かれているのに、新版は決してそれを認めないで新しい理論が作られているのです。これは何かあやしい、と思い始めました。私が図書館に行く度に奇跡のようなことが起こりました。正反対のことが書かれている二冊の本が、いつも隣同士になって本棚に置いてあるのです。

毎日毎日、昼も夜もこの問題を考え続けました。当時は遺伝学を教えていましたが、進化論が真実であるならば解決しなければならない問題点のリストを作り始めました。短い間に問題点のリストは驚く量になってしまい、大いに困惑しました。私はやっとここで、進化論にとつもない問題があることに気付きました。

## 戻ってきた悪夢

私たちが学びを続けるに伴って、すでに幼児になっていた子供にまた問題が戻ってきました。ある夜、ちょうど夜中の2時に、絞め殺されそうになる以前と全く同じ夢を見ました。私が驚いて起きると同時にとなりの部屋で寝ている子供が泣き叫びました。やはり子供は高熱を出していました。この時は病院に行かなくて済みましたが、これはあまりにも奇妙すぎる、と思いました。

私は大工に、この奇妙な出来事を話しました。彼は、「心配することはないよ、家族のために教会のみんなで祈るから」と言ってくれました。大工は教会の人たちに目覚まし時計を夜中の2時にセットして、その時間に起きて、彼らの全く知らない私たちのために祈るようにお願いしてくれました。教会の人々の祈りによって、私たち家族にまた平和が戻ってきましたが、一度だけ一人の婦人が夜に起きて祈るのを止めたことがありました。その夜に限り私は同じ夢を見て子供は泣き叫びました。

今振り返ってこの出来事を考えて気付いたことは、神様はその婦人の祈りを必要としていたわけではありませんが、私にはとても重要な教訓になりました。神様は、私たち神の民が一致して前進していくことを望んでいらっしゃるということです。次の夜、婦人は目覚まし時計を掛け、夜起きて祈ってくれました。神様は私たちが一度も会ったことのない人々の祈りに答えてくださり、それ以来悪夢を見る事は全くなくなりました。そして子供も、私たちにとって小さな天使のようになったのです。

## 決心

「こんな中間地点でいつまでもうろろしてることはできないよ」。とうとう私は妻に言いました。私は大学の教授と一緒にギリシャ語、ヘブル語、そして歴史的な観点から聖書を調べました。進化論が根拠の全くない理論であるという結論に達してしまいました。聖書の預言も詳しく調べ、他の教会の教義もすべて学びました。もう言い訳はなくなりました。そして私は家族に宣言しました。「これから我々家族は安息日を守り、セブンスデー・アドベンチスト教会に出席することにする」。

私の妻は初めてアドベンチストの人々を見た時に、彼らの持っている清楚な雰囲気感動し、集会の最後まで溢れる涙を止めることができませんでした。ところが私ときたら、「なんでこの人たちはこんなに変わってるんだ、奇妙なものは食べるし、やっぱり前の生活に戻りたい」と言いました。なんて無気味な教会だ。今までミサに出席するのにジーパンとTシャツだったのに、アドベンチストの男たちはネクタイにスーツを着るのか？気持ち悪い！なにしろ私たちは、ビールを片手に冗談を言い合いながら騒ぐような社交を楽しんできたからです。

聖霊は私の心の奥深い所にまで届いてくださいました。「あなたは安息日に礼拝をしているが、まだ進化論を教えているではないか」。私は心の中ではこの状況を変えなければならないことはわかっていました。そしてついに私は遺伝学に於いて、進化論の考えは不可能であることを説明するための講義の準備を始めました。

2週間後、大学院生のための進化論のディスカッショングループの指導をするように依頼されました。こんなに早くこの時が来るとは思っていませんでしたので、私の心は恐れで一杯になりました。私はまだ進化論を信じているふりをしてこのディスカッションに臨もうか、それとも今信じている事に堅く立って同僚たちからの面子を失うのか。アドベンチスト教会の新しい友人たちに対する気味の悪さは少なくなっていました。そして彼らは私のために祈ってくれることを約束してくれました。

## 土壇場

私はすべての大学院生、スタッフと向かい合いました。講義が始まり、私の今までの研究で発見したすべての問題点をひとつひとつ挙げていきました。そして最後に結論として、はっき

りと次のように言いました。「それ故に、進化論はありえない」。

部屋が静まり返りました。誰かの持っていたペンが落ちて、ポトンと音を立てると同時に、教室の中は大混乱になりました。一人の同僚が、かなきり声を上げながら攻撃してきました。そしてようやく混乱が収まり始めたとき、優等生だった若い女生徒が立ち上がり、彼女の担当の教授に向かって言いました。「私がこの大学に来た時、私は神を信じ、神と共に歩む生活をしていました。とても幸福な人生でした。けれども今、私は何も信じていません。あなたは私の信仰を奪い、人生の全てが崩れ落ちました。今日の午後のドクターファイトの講義は、あなたが私を間違った道に導いてしまったことを証明しました」。

それからどのような事が起きたか想像できますか？彼らは緊急の会議を開き、すべての学科の基礎は進化論にしなければならないという票決がなされました。この決定は、私にとって終わりを意味しました。私の人生は科学的信ぴょう性の立場からすると、全く無価値なものになりました。私は辞表を提出しました。上司は、「そんなに簡単に辞職するなんて出来るわけがない、君は人気のある教師でほとんどの大学院生は、君の担当になっている、その生徒たちをどうするつもりなんだ」と挑戦的に言ってきました。

大学の総長から呼び出しがかかりました。おかしな話ですが、教会にジーパンとTシャツで行く私が、総長の面接に備えるために初めてスーツとネクタイを買いました。総長とは長い間話し合いをし、そして最後に言われました。「もしあなたがこれ以上大学内で波風を立てずにいてくれたら、あなたを教授の地位にまで昇進させることができるんだがね」。この提案は私の心を激しく動揺させました。ああなんていう誘惑、私は部署の中で一番若い教授になれる。

私は向き直って総長に言いました。「それはあまりにももったいないお話です。やはり私は教師職を去るべきです」。「それがあなたの決心ですか…。ところで、誰が真理を持っていると思いますか？」

「聖書に真理があると思います」。と私は答えました。

「いや違うんだ、だれが真理を持っているかという君の考えを知りたいんだ」。私は、彼の質問の意味がよくわかっていました。けれども自分の口からは決してその答えを言いたくありませんでした。言葉を濁らせながら曖昧な返事をし、話題が変わることを期待していました。

「それはヘルダーバーグカレッジ（南アフリカのアドベンチスト大学）にいる人たちでしょうか」。

「違う、それを聞いているんじゃない、どこ教会に真理があるかということを知りたいんだ」。彼は三回同じ質問をしました。ああ、答えるしかないのか！

「セブンスデー・アドベンチスト教会に真理があると思います」。答えると同時に全身の力が抜け、死人のようになりました。私は彼から猛攻撃されることを覚悟していました。けれども彼はただ単に、「ありがとう、あなたの選択を尊重します。これからの事が順調にいくよう願ってます」と言っただけでした。

## 祝福

辞職をしたので、私たちは家を売ることにしました。一番最初に家を見に来た男性が私たちの家を気に入り、売買の契約はすぐに成立しました。彼は私たちが提示した価格に全く値切ることをしませんでした。そしてそのお金で酪農農場を買いました。

私たちは小麦を植え、それはとても背高く成長しました。その町のすべての農家の人々が、



私たちの小麦を見に来るほどでした。「あんたのような大学の教師は、我々の知らない何かを知っているに違いない」。

「それは違います、私たちはあなたたちと全く同じ方法で植えて育てているんですよ」とは言いましたが、心の中では、それは私たちが神様に従っているからで、クリスチャンになれば何もかもうまくいくのさ、とほくそ笑んでいました。

私たちはその地域で最高の農場にしたいと思いましたので、家を売ったお金の他に、私の父からの遺産と、私たちのすべてのお金をつぎ込み、足りない分は銀行から借りました。

## 大惨事

ところがある日、大量の鳥の群れがやって来ました。この鳥たちは、周りの農家の短い小麦畑には目もくれず、一番成長していた私たちの小麦畑を彼らの棲みかにし始め、すべての実を食い尽くしてしまいました。私たちの最大の収入源であった小麦は、またたく間に消え失せました。

経済制裁に続き、南アフリカの経済は崩壊しました。当時3～4%であった利子は最高28%まで跳ね上がりました。私たちはローンの返済に何の支障もありませんでしたが、跳ね上がった利子により借金は悪夢へと変わっていきました。私は神様に向かって泣きながら訴えました。「神様、どうしてこのようなことができるのですか、鳥は小麦を食べ尽くし、私の科学者としての地位も肩書きも無くし、仕事に戻れません。家族を養うこともできなくなりました。もう終わりです！」

事態は更に悪化しました。私たちの車2台が大きな事故に巻き込まれ、廃車同然の状態になってしまいました。今、私が持っているものは価値のなくなったこの農場と、膨れ上がった借金

だけです。私の妻はひどく落ち込みました。私たち家族はそれぞれ自分自身に問い続けました。私たちは正しいことをしてきただろうか？これが神様を愛する人たちに対する神様の関わり方なんだろうか？私たちは何度もこの事について話し合いました。

## 申し出

以前私たちがとても良い印象を持っていた司祭から突然電話がありました。この時は本当に苦しい時間でした。「よく私の家の電話番号がわかりましたね。ところで何か用ですか」。彼は言いました。「亡くなったあなたのお父さんが、今煉獄で相当苦しんでいるようですよ」。「なぜそんなことがわかるのです？」私はその時にはすでに聖書から死後の状態のこと、復活の時までは死人は墓の中で眠っているということを学んでいました。「修道院から一度も外の世界に出たことのない修道女が教えてくれたんだが、あなたの父親はあなたが原因で苦しんでいる。とにかく教会に戻ってミサをするべきだ。そうすれば父親の煉獄の苦しみはなくなるだろう」。私はこの司祭がとても誠実な人であることを知っていましたが、気の毒なことに彼は完全に欺かれているのです。そこで私は丁寧にお礼を言って電話を切り、心の中で言いました。残念だが悪魔よ、もう遅すぎるよ。

司祭が私の家でミサを行い子供の状態が良くなったのは、サタンの計略でした。サタンは仲間に少し引き下がっているように指示し、子供を普通の状態にしておいたのです。これは罠で、私たちはカトリック教会に戻りました。今度は聖書の勉強を始めた時、また息子の問題が戻ってきました。けれどもその後、私たちが心からイエス様に従っていこうと決心した時、息子はとても優しい、以前には想像もすることが出来ないくらい霊的で、天使のような存在になったのです。

神様は、私たちを真理の道へと一步一步導いて下さいましたが、まだ私たちが理解していない事がありました。「もう一文無しになって、この農場を失う瀬戸際まで来てしまった。大学の仲間からはのけ者にされ、学界では物笑いの種になって、前の仕事に戻る可能性は全くなくなってしまった。食料も尽きたのに買うお金もない！」私たちは家族全員でひざまずき、聖書の中にあるすべての約束を神様に申し上げました。

## 約束

私は祈りました。「神様、あなたは私たちの必要を満たして下さると約束して下さいました。そして正しい人は、道端で物乞いをする事はないとも約束して下さいました」。私たちは聖書の中のすべての約束を紙に書き出しました。そして私は続けて祈りました。「神様、これらの約束は私たちのものであると信じています。どうぞ私たちを食物とお金のないままで放っておかないでください。あなたの御心が行われますように」。

私たち家族の命は神様の御手の中にあると確信したので、その夜はとても良く眠ることができました。次の日の朝早く、他の大学からの緊急の電話が鳴りました。「実は一人の教授が突然一年間仕事を離れなければならない状況になった、彼の代わりにクラスを教えてはくれないだろうか？」

「実は今創造論を信じているので、もう進化論は教えられないんです」。

「そんなこと誰がかまうものか。ただ科学の分野だけ教えてもらえればいい。今窮地に陥っていてどうしても代わり的人がいないとだめなんだ。来てくれるだろうか？」

「もちろん。授業はいつから始まるんですか？」

「いろいろな会議の決議が必要だから約3ヶ月後位かなあ」。

「ありがとうございました」と電話を切りました。

神様、お心に留めてくださりありがとうございます。でも3ヶ月後には、私も家族も餓死しているでしょう。

20分後にまた電話が鳴りました。同じ教授からでした。

「あれから総長の所に行って話したんだが、彼は会議をしている余裕なんかない、今許可書にサインするから彼に明日にでも来るように言うておいてくれと言われて」。

「ではいつから始めたらいいでしょうか」。

「月曜日」と彼は言いました。その日は木曜日でした。

## 解決

何てことだ。この週末だけで解決しなければならぬ問題が山ほどあって不可能だ！ 私は妻に言いました。「ウエスタンケープ大学で仕事を始められるようになった。一年間だけだけど、その後はどうにかなるさ」。「すばらしいわ！ だけど... この農場、そしてたくさんの牛たちはだれが面倒を見てくれるの？」「それを今考えていたところなんだ、だけど神様は一つの解決をくださったんだから、この問題の解決もして下さいよ」。私たちはひざまずいて祈りました。

「神様、あなたもご存知のように、私たちは無一文になりました。この農場を管理してくれる人を雇うお金がありません。どうぞ私たちに解決方法をお示してください」。

祈りが終わるか終わらないかという時です、だれかがドアを強くノックしました。そこにはジンバブエから来たという若い夫婦が立っていました。私は彼らを招き入れ、熱心に話を聞きました。

「私たちはセブンスデー・アドベンチストです。そして安息日に仕事をしないという理由で、

農場の仕事を失いました。今、住むところを探しているのです」。

「ここに住んでこの農場の仕事をしてみますか、でも私たちは賃金は払えませんが」。

「もちろんです。私たちはただ住むところさえあればいいのです」。

「牛たちの世話をしていただきたいのです。ミルクでも作物でも何でも売れるものがあつたら、それはあなたたちのものにしてください」。

彼らは同意してくれました。私はローンの利子を給料から払えると思いました。

神様は奇跡に次ぐ奇跡をもって私たちのすべての必要を満たしてくださいました。誰かのノックで外に出ると、そこにはバスケットに一杯の食べ物が度々置かれていました。給料が入る時まで、私たちの車の中にいつも一定額の生活に必要な現金が置かれていました。それは学校に行く車の中でいつも娘を見つけました。また、月の終わりに家賃を支払う借家を見つけたので、住む所の心配もありませんでした。

私が大学で教え始めて間もない頃、私の話を知った一人のアドベンチストの人が電話をしてきました。「ローマリンドの地球科学研究所で、ドクターアリエル・ロス率いる聖書科学ツアーに是非同行していただきたいと思ひまして。洪水や、創造の聖書的見地、証拠を見てあなたの信仰を更に確かに出来る機会になればと思ひ電話しました」。

「それは不可能なことです。今この仕事は始まったばかりで、6週間の休暇などお願いできるわけがありません」。ありえないことだ！ところが、その後すぐにこの大学で暴動が突発しました。そして国中の至る所で暴動が起き、大混乱に陥ってしまいました。大学の総長は、学校を閉鎖する命令を出しました。

私は部署の上司にこれからどうすればよいのか尋ねました。彼は私を見て言いました。「月でもどこでも行つたらいい。とにかくここから離れて6週間は絶対に戻つてこないように！」パーフェクトなタイミングでした。私は地球科学ツアーに参加し、これからの創造論の講義に必要

な多くの情報を得ることができました。

大学に戻ると、何人もの教授が暴動の犠牲となつて亡くなっていました。私たちはその埋め合わせのために懸命に働きました。ある時、重要な地位の候補に、ケンブリッジ大学の教授と私の名が挙げられました。

これは後で聞いた話ですが、最終的にどちらか一人を選ぶ選考委員会で、ある人が言いました。「ドクター・ファイトを選ぶわけにはいきません。また大変な騒ぎを起こすことになります。それに彼は奇妙な考えを持っています」。けれど当時は学生暴動の起こつた直後だったので、組織に逆らうことが流行のようになっていたのです。他の教授が言いました。「ということは、彼はステレンボッシュ大学で教えている時に反逆を起こしたということか。それは気に入った！」この一言で私が選ばれました。

## 神の業

このようにして、神様は私を今の仕事に就けてくださいました。私は一般大学の動物学部門の主任教授として働いています。私はここで創造論を教えています。人間的に考えてこれは不可能なことです。けれども神様が私をここに置いてくださいました。そして神様が望まれる間はここで働くことでしょう。扉が閉められる時が来るならば、私にとってさらに良い所にまた導いてくださるでしょう。

この宇宙を創られた神様は、どのように人生を歩むべきかを教えてくださいました。イエス様は十字架上で私の罪のために死んでくださいました。そしてまたお戻りになって、私の天国にある本当の家に連れて行ってくださいます。聖霊は、私たち家族を一步一步真理に導いてくださいました。神様はあなたもそのように導きたいと思つていらっしゃる。正しいことは、それが正しいがゆえに選び、結果はどうぞ神様に委ねてください。そうする時、神様があなたに持つていらっしゃるすべてのご計画を成就してくださいます。



# THE GREAT IMAGE

～心の誠実な者へ～

## 大いなる像とは何か？

砂川 満 訳

### 人間の像



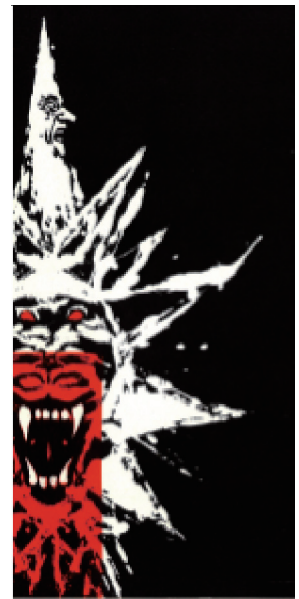
ダニエル書と黙示録の中で、最も主要な預言は**ダニエル書 2 章**にある。ここで、キリストの王国設立まで歴史を支配する王国が人間の像によって象徴されている。もし私たちがこの象徴の重要性に気付かなければ、ダニエル書と黙示録に示されている真理の大いなる教訓の多くをつかみ損ねるのである。生まれつき罪深い人間の像が、石がそれを砕くまで場面を支配している。ダニエル書で述べられている王国とは、人間の王国である。それらは人間の才能、はかりごと、発明の結果できたものである。人間の歴史とは、人間の心を暴露したものに過ぎない。像は退化していく。故に、人間の黄金の夢は人間自身より優れたものではあり得ない。それは粘土に過ぎない。人間の進歩は上に向かっていくのではなく下に向かっていく、と像は私たちに教えている。人間の像があるところには退化がある。ローマは地上の人々を打ち砕き、傷を与えた。それは人間の像（かたち）と心を表していたからである。



## 人間の心

**ダニエル書 7章**では、人間の像が獣によって象徴されている。人は、神なしでは獣のようである。「……人間の心は利己的で、罪に満ち、かつ邪悪である」(RH1885年5月5日)。人間は神なくしては、自然界の獣より悪いものにまで退化してしまう。ダニエル書7章の第四の獣は、自然の象徴で表現し得るどの獣よりも醜く、恐ろしいものであった。

バビロンはしし(ライオン)によって象徴されている。ライオンは王者らしく堂々としている。ユダ王国とその王でさえ、威厳のあるライオンによって象徴されているほどである。ところがダニエル書7章のライオンにおいては、悲惨などんでん返しがある:「……人の心が与えられた」のであった(ダニエル7:4)。人の「心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている」(エレミヤ17:9)。ダニエル書に描かれている歴史は人間の心の暴露であることを認めない限り、預言の中で神が与えようとしておられる教訓を私たちが学ぶことはないであろう。人間全体の自我について明瞭な理解を得るにつれて、私たちが自分自身の自我について知ることを神は望んでおられる。



**“見よ、この小さい角には、人の目のような目があり、  
また大きな事を語る口があった” ダニエル7:8**



## 人の目

神が法王教を断罪しておられる部分を読み、反キリストが分かったと言って気をよくするのは容易なことである。しかし、私たちは法王教が何であるかを本当に理解しているだろうか。法王教がどのようにして存在するに至ったのかを理解しているだろうか。神の言葉は次のように述べている:「見よ、この小さい角には、人の目のような目があり、また大きな事を語る口があった」(ダニエル7:8)。法王教が人間の悟りという目によって特徴付けられている。キリストは純潔な教会を設立なさった。その教会は純潔な統治と信仰を持っていた。ところが聖職者たちが、自分たちの悟りという目で教会統治の問題を見るようになったとき、彼らは徐々に聖職の階層と人間の権威の階級制度を発達させてきた。その結果、法王教が出来上がったのである。人間の学識と神学が、受肉とイエスの罪なき性質の奥義を無理に説明しようとした結果、マリヤの無原罪懐妊というカトリックの教理が出来上がったのであった。罪なき状態に達していない未熟なクリスチャンが如何に天国に入れるかを生まれながらの理性でもって説明しようとしたとき、煉獄という教理が考え出されたのであった。法王教は徐々に、またほとんど感知できないほどに、神の啓示を人間の教えとすりかえた結果生じたものである。



## 人の言葉

法王教の「目」と同様に、その「口」もしかりであった。それは人間の像（かたち）、人間の心、人間の目、人間の口を表したものであった。従ってその言葉、すなわちその教義や布告は、人間の教理や戒めであったのである。

法王教とは、全体的、組織的意味における人間の性質を露呈したものである。最初、法王教の教理の不可謬性（決して誤り得ないこと）は、アダムとエバが罪を犯したときのエデンの園に現れた。なぜ禁断の木の実を食べたのかと尋ねられたとき、どちらも他に責任を転嫁した。男は女に、女はへびに、とどのつまりはすべてを神のせいにしたのであった。自己を正当化し自分に非はないとする精神は、人間が生まれながらに持つ精神である。反キリストの精神とは神の位置に自らを置くことであるが、これが人間の原罪であることを私たちは理解しなければならない。また、宗教的不寛容と迫害の精神も、人間の心に根付いているものである。ローマだけでなく人間の心も、あらゆる汚れた憎むべき鳥の巣くつなのである（黙 18 : 2 参照）。法王教においては、人間のかたち、人間の心、人間の目、人間の口が究極的に表されているのである。使徒パウロはダニエル書の預言について言及し、この勢力を不法の者（罪の人）と呼んでいる。

## 人間の数字

黙示録はダニエル書の預言的テーマを継続させている。**黙示録第13章**は、地上に住むすべての人に臨むであろう大宗教危機に焦点を当てている。大いなる光と自由を誇る国において、獣の像が形作られる。すべての人は「新しい、高められた宗教的体制」の内であって、礼拝することを要求されるであろう。多くの人は、獣がどれほどすばらしいものとして提示されることになるか夢想だにしない。明らかに像の形成は、人間がなし得る善の究極となることだろう。つまり、神なしの人間的「善」として。地に住むすべての人は、驚き恐れてそれを拝する。ところが、全人類の希望として現れるこの像を崇拜しない残りの民がいるのである。宗教体制の至る所にある数字が書かれていることを彼らは認識する。それは神の数字ではない。御言葉はこう述べている：「……その数字とは、人間をさすものである。そして、その数字は六百六十六である」（黙 13 : 18）。つまり、すべての機関、団体、制度は人間の数字を帯びるであろうということである。霊的識別力を持つ者たちにとって、666 が識別されるようになる。



「神から来る宗教だけが、  
神に至る唯一の宗教なのである」

— エレン・G・ホワイト

十四万四千は獣とその像また刻印に勝利するだけでなく、彼らはその名の数字に打ち勝つと聖書は述べている（黙 13：17；15：2 参照）。これは単に、法王の帽子に書かれている何かに打ち勝つこと以上の意味がある。それは、人間によって腐敗させられたすべての宗教に打ち勝つことである。人間の数字は6である。6は、完全を表す数字7に足りない。人間がどんなに努力しようと、いつでも完全には足りず、人は罪の故に、神の栄光に足りなくなっている（神の栄光を受けられなくなっている）。何事をするにも神がそこにおられなければ、それは罪となるのである。

この事のすべてにおいて、神が私たちに学んでほしいと望まれる大原則がある。「神から来る宗教だけが、神に至る唯一の宗教なのである」（教会への証 9 巻、156 ページ）。

## 人間の宗教

神の子らの内になされた最初の宗教論争が、カインとアベルの間で起きた。当時のいさかいの本質を研究するなら、それは本質において、神の民が間もなく突入しなければならない最後の大きいなる戦いと同様のものであることを理解するであろう。

カインは宗教的な人物であった。どうしてそれが分かるのだろうか。彼は祭壇に捧げ物を持ってきた。彼には彼なりの、礼拝のやり方があった。その礼拝は彼を神へと導いたのだろうか。否である。何故か。「神から来る宗教だけが、神に至る唯一の宗教なのである」。カインの礼拝に対する概念は、神からのものではなく、自分勝手に確立したものであった。彼の宗教は、彼がどのように礼拝すべきかを自分で考え出したものであった。それは彼自身の心から来ていた。それは彼が勝手に得た悟りの結果であった。彼の宗教は人間の数字を帯びていたのである。

でもそれだけではない。長男だったカインは、祭司でもあった。アベルは彼の弟であり、ある程度の宗教的権威が彼に授けられていたので、弟は自分の宗教的信条を兄に委ねるべきであると考えたのであった。ところがアベルは、自らの宗教を人間から受けることを拒否した。彼は神から来る宗教だけを欲した。それだけが神に至る唯一の宗教であったからである。

人間の宗教には神の力が欠けているために、人は自分自身の権威でもってその不足を補おうとする。これが神への熱心さとみなされる訳である。そして一連の出来事においては、カインは義憤の余り弟を殺害したのであった。その時神は、カインにあるしるしを付けられた。ここに私たちは、獣の刻印の型を見ることができる。最後の大きいなる戦いにおいて、人間の宗教に従うすべての者は、そのしるしを受けるであろう。

ここで一息入れて、私たちの心に深くしみる教訓を学んでみよう。次に挙げる引用文の一語一語が、私たちの心にしっかりと刻まれることを願うものである：

「牧師であろうと信徒であろうと、他の人の理性を強制または支配しようと試みる者は誰であっても、自らの働きをするためにサタンの手下となり、宇宙の目には、カインのしるしを帯びている者とみなされるのである」（バイブル・コメンタリー 1 巻、1087 ページ）。

# イエスとユダヤ人指導者

イエスとユダヤ人指導者たちとの間のいさかいにおいても、同じ原則が例示されている。ユダヤ人国家の指導者たちは、宗教的権威を有する立場にあった。ところがイエスは率直に、彼らの宗教は人々を神に導くことができないと言われたのであった。何故？それが神から来る宗教ではなかったからである。彼らは「人間のいましめを教として教え」といっていると、イエスは言われた。彼らは真理を教えることよりも、自分たちの宗教的権威を維持することに関心があった。再びイエスは彼らに言われた：「あなたがたは自分の父、すなわち、悪魔から出てきた者であって、その父の欲望通りを行おうと思っている。彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。彼が偽りを言うとき、いつも自分の本音をはいているのである。……」（ヨハネ 8:44）。ここで、イエスは誤りを指さしておられる。サタンは偽り者である。なぜなら彼が語る時、彼は自分自身のうちに生じる事柄を語るからである。だから人が自分自身の内に生じる事柄を語る時、それは偽り以外の何ものでもあり得ないのである。彼らの宗教は人間の像（かたち）、人間の心、人間の目、人間の言葉を帯びていて、そこに書かれているものは、すべて人間の数字なのである。

一方イエスが教えられた宗教は、人を神へと導いた。それは神から来ていたので、神に至らせるものであった。「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう」（ヨハネ 7:16, 17）。

カインのように、人間の戒めを教えた者たちは、サタンの熱心さをもってそれを教えた。その熱心さは、神に対する熱心さと似ていた。自分たちは神の務めを行っているとうぬぼれて、彼らは神の御子を殺害したのであった。何であって人間の上書きを帯びている宗教は、欺瞞に満ちているのである。

## パウロの宗教

神の宗教と人間の宗教が、使徒の言葉によって効果的に対比されている：

「兄弟たちよ。あなたがたに、はっきり言うておく。わたしが宣べ伝えた福音は人間によるものではない。わたしは、それを人間から受けたのでも教えられたのでもなく、ただイエス・キリストの啓示によったのである。ユダヤ教を信じていたころのわたしの行動については、あなたがたはすでによく聞いている。すなわち、わたしは激しく神の教会を迫害し、また荒しまわっていた。……先祖たちの言伝えに対して、だれよりもはるかに熱心であった」（ガラテヤ 1:11-14）。

ルターの宗教とカトリック教についても、同じことが言える。宗教論争において危機に瀕した原則は、いつの時代でも同じなのである。







## 最後の争闘

黙示録 13 章と 14 章で提示されている最後の争闘は、「人のおきてと主の戒めとの間の、また、聖書の宗教と作り話や言い伝えの宗教との間の、戦い」である（大争闘下 344 ページ）。聖書の安息日と日曜日が、それぞれの側の顕著な特質となる。安息日は神から来ている。そこには、礼拝に関する神の意図がある。従って、真の安息日遵守は神に至る。日曜日の神聖化は、キリストの復活を尊重するという人間の考えに基づいていた。人間の意図に関係なく、日曜安息日の内に神の是認はない。それはカインの捧げ物と同じである。神から来る宗教だけが神に至るのである。人間に源を置くものは偽りである。日曜日の神聖化は、人間の像なのである。それは人間の心から出たものなのである。人間の悟りという目がそれを形作った。人間の言葉が、日曜日の神聖化を宣言したのであった。人間の数字も至るところに書かれている。このために、神は獣の刻印を特に厳しく譴責されたのであった。法王教の安息日を尊重するようすべての人を強いるのに、強制がふんだんに用いられるであろうことを預言は示している。カインがそうであったように、人間から来る宗教は強制、殺人、また神からの別離に導くのである。



## ラオデキヤにおける問題

もし人が、カトリック教会や日曜日を遵守するプロテスタント諸教会から逃れ出るなら、その人は獣の刻印を受けることを免れるだろうと一般に考えられている。この概念は、真理の本当の原則に関する極めて表面的な理解を示している。人間の宗教の問題とは、要するに、すべての人の心なのである。人間がその宗教を全的に神から受けること、すなわち霊とまことにおいて神を礼拝するというのは、自然なことではない。人間の心には、人間を礼拝する傾向がある。初代教会の時代、この傾向が徐々に発達して、ついには法王教が形作られるまでになった。教皇制度は、ローマ教会だけに存在するのではない。教皇制度は人間の精神そのものなのである。人が自ら宗教の務めに立ち入っている限り、どの教会にも教皇制度が存在するであろう。今日の神の民は、初代のキリスト教徒よりも欺瞞に対して免疫ができているとどうして言えるだろうか。

まさしくこの事柄について私たちに与えられている靈感による勧告を考察してみよう：

「教会は長年もの間人間に目を向けてきており、人間に多くの事を期待しているが、永遠の生

命という我々の希望の中心となっ  
ているイエスに目を  
向けていない」（牧師への証 93 ページ）。

「また世界総会は、間違った考えと原則でもって自ら腐敗してきている。……ユダヤ

国家があのような思想と行動に陥ったのは、突然のことではなかったことを私は示された。世代から世代へと進むにつれ、彼らは真理に相反する原則を遂行し、彼らの宗教に人間的思いの産物である思想と計画を混ぜることで、誤った理論に取り組んでいった。人間の作り事が最上のものとされた。……サタンの方法はある結末に至る。それは、人間を人間の奴隷とすることである。……支配しようとする精神が、我々の教団の指導者たちに広まっている。……彼らはローマ教の足跡をたどっているのである」（同 359-362）。



神の民に宛てられたこの証は、1895年に書かれた。当時教会内で膨れ上がっていた、人間の器を拝む偶像礼拝に関する証である。その全章にわたって、肉なる者を自分の腕とすることに対する警告が貫かれている。教会の内に働いていたこの人間的傾向を、証の書は何と呼んでいるのだろう。実は、ローマ教の精神と呼んでいるのである。

「教会員たちが人間的手腕を頼みとし、それに依存するよう教育されているために、我々の教会は弱体化してきている」(同 380 ページ)。

「長年にわたり、責任ある地位に置かれる人々が神の嗣業の上に君臨するという傾向が強まってきたおり、こうして教会員たちから、神の指示に対する鋭敏な必要感と、彼らの義務に関して神に助言を求める特権を正しく評価する感覚を取り除いているのである。……私はこの事を最大限に書こうと思う。なぜなら牧師たちや民衆が、知恵を求めて有限な人間に益々信頼し、肉なる者を自分の腕とすよう誘惑されているのを私は示されたからである。……このメッセージは、我々の教会の至るところで語られている。既に入ってきている偽の経験において、人間の器を高め、人間の判断に信頼するようある者たちを導き、そうして人間の思いによる支配に委ねるための決定的な影響が盛んに働いている。この影響が、人々の心を神からそらしている。セブンスデー・アドベンチストとしての陣営において、このような経験が深まり育つことを神は禁じておられる」(同 477-484)。

同じ本からもう一つだけ引用しようと思う。その一語一語が、私たちの心に深く浸透することを願うものである：

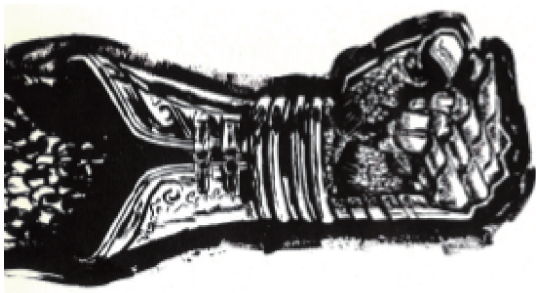
「我が民が陥りやすい大きな危険は、『人を頼みとし肉なる者を自分の腕と』することである。自分で聖書を探り調べたり、証拠を慎重に検討したりする習慣のない者たちは、指導者らに信頼を置き、彼らの判断を受け入れる。こうして多くの者たちは、もしこれらの指導的立場にある兄弟たちが受け入れなければ、神がお送りになる使命そのものを拒むであろう」(同 106, 107 ページ)。

反キリストの精神は残りの民の間にさえ存在することを、証の書から十分実証してきた。神が設立なさったセブンスデー・アドベンチスト教会に何か本質的な間違があるというのではなく、人間のただ中に存在する問題を私たちは理解しなければならぬのである。それは、六千年にわたって神の民の内に現れてきた病である。民として私たちの特徴となってきた大罪の一つは、人間という器を崇める偶像崇拜である。神の恵みによってこの病が癒され得ない限り、人の名の数字に決して勝利することはできない。神の位置に人間を居座らせるというこの制度の結末は、その性質そのものにおいて獣の刻印であり、それ以外ではあり得ないのである。先に挙げた引用文で指摘されているこの悪から、私たちが民として完全に癒されない限り、私たちは獣の刻印へと向かっていることになるのである。

私たちの預言者が亡くなって以来問題は減少していると、道理にかなった主張のできる人は誰もいない。今日のイスラエルにおいて問題が増加してきていることは、あらゆる証拠により明白である。世紀の変わり目に教会が直面した致命的背教のアルファは、自然界の生命と神格としての神とを混同させる試みであった。あらゆる徴候により、ホワイト夫人が警告した背教のオメガは、人間の声を神の声と人々に教える風潮が教会内に増大していくということであった。このようにして、我が教会内の多くの者たちは、法王の無謬性を世界総会の無謬性に置き換え、臆することなく、闇雲にそれを擁護するのである。

最終時代の教会内に現れるであろう背教のオメガについて、エレン・ホワイトは次のように書いている：

「私は我が民に、エゼキエル書 28 章を学ぶよう要請する。ここでの描写は、主として墮落天使ルシファーに当てはまるとはいえ、更により広い意味を持っている。一つの存在だけではなく、全般的傾向が述べられていて、我々はそれを目の当たりにするのである。この章を忠実に学ぶなら、神が民にお与えになったすべての光の中を歩もうと真理を探究している者たちを、これら最終時代の惑わしに欺かれないように導くであろう」(4BC1162)。



## 覚醒

神の民を聖所へ、中でも至聖所における聖所の清めの経験へと召し入れるメッセージがある。神の言葉をもってこのメッセージに反論を試みる人はほとんどいない。それは不可能だからである。ならば、これに反対する人たちは、一体何を根拠にしているのであろう。教権（教会の権威）である。いつの時代でも、真理と教権との間でふり合いが行われてきた。どの宗教論争においても、その本質は変わらない。論争を強制によって解決しようとする者たちには、次の靈感の言葉が当てはまるのである：

「牧師であろうと信徒であろうと、他の人の理性を強制または支配しようと試みる者は誰であっても、自らの働きをするためにサタンの手下となり、宇宙の目には、カインのしるしを帯びている者とみなされるのである」（バイブル・コメンタリー 1 巻、1087 ページ）。

## 警告

人は教派を変えることによって偶像礼拝（人間崇拜）の罪から逃れる訳ではないことを、理解していなければならない。確かに、日曜日を遵守する諸教会を出ることは獣の刻印から逃れる過程の一部ではあるが、それがすべてではない。たとえ現代の真理を受け入れたとしても、それが安全の保証とはならない。そこで、次の質問を自らに問いかけていただきたい：「人間という器を拝む偶像崇拜が、現代の真理の名において定着しようとしてはいないだろうか？」。現代の真理を信じると公言する人たちの心に、より深い恵みの働きがなされない限り、私たちは生きて天のカナンに移されることのなかった父祖たちの道を歩むことになるだろう。人間の像、人間の心、人間の目、人間の言葉と教え、そして人の名の数字に対して完全な勝利を収めるであろう民を、神は召しておられる。イザヤ書の中に、現代のためのメッセージが記されている：

「呼ばれる者の声がある、『荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。……こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る。これは主の口が語られたのである』。声が聞こえる、『呼ばわれ』。わたしは言った、『なんと呼ばわりましょうか』。『人はみな草だ。その麗しさは、すべて野の花のようだ。主の息がその上に吹けば、草は枯れ、花はしぼむ。たしかに人は草だ。草は枯れ、花はしぼむ。しかし、われわれの神の言葉はとこしえに変わることはない』。よきおとずれをシオンに伝える者よ、高い山にのぼれ。よきおとずれをエルサレムに伝える者よ、強く声をあげよ、声をあげて恐れるな。ユダのもろもろの町に言え、『あなたがたの神を見よ』と」（イザヤ 40：3～9）。

長年にわたり、教会は人間を仰ぎ、人間に多くを期待してきた。神は「人はみな草だ」と呼ばれるよう、私たちに召しておられる。それから「あなたがたの神を見よ」と呼ばれるようにと。私たちすべての者に降りかかろうとしている大嵐の中、誰が一片の草に身を寄せたいと考えるだろうか。覚醒メッセージは、聖所の至聖所において、現在イエスがなしておられる働きを指し示している。ここに、獣の刻印から守られるための唯一の保護策がある。





## 新しい契約

至聖所におけるイエスの務めは、新しい契約の完全な成就—罪の除去、生ける神の印—を私たちに提供している。それは、全イスラエルのための神の御目的が成就するためである：「彼らは、それぞれ、その同胞に、また、それぞれ、その兄弟に、主を知れ、と言って教えることはなくなる。なぜなら、大なる者から小なる者に至るまで、彼らはことごとく、わたしを知るようになるからである」（ヘブル 8：11）。「あなたがたのうちには、キリストからいただいた油がとどまっているので、だれにも教えてもらう必要はない」との御言葉が成就するであろう。「この油が、すべてのことをあなたがたに教える。それはまことであって、偽りではないから、その油が教えたように、あなたがたは彼のうちにとどまっていなさい」（Iヨハネ 2：27）。

私たちが獣の刻印から守られる唯一の方法は、イエスとの新しい契約関係に入り、その完全な成就にあずかることである。これこそ、至聖所においてイエスが遂行しておられることなのである。至聖所の中には、神の律法のそばにマナの入った壺がある。それは神からのみ来る生命のパンである。第一の部屋にあるパンは神から与えられたが、祭司たちの手を通して供えられた。至聖所にあるパンは、直接神から与えられるものである。それは、新しい契約の経験が完成することを表している。人間の悟りではなく、私たちが自ら神を知り、至聖所におけるイエスの務めを通して最後の贖い（一体となること）に入ることを神は望んでおられる。繰り返すが、これが獣の刻印から守られる唯一の方法なのである。

獣の刻印を受けるには、神の印を受けることを怠るだけでよい。神の印は、「純粋な真理のしるし」と呼ばれている（教会への証 3 巻、267 ページ）。

天の真理だけが、人間の教えという腐敗から徹底的に識別されている。ダニエル書 8：14 に登場した聖所の清めの大きい働きは、あらゆる人間的教えから神の民の心を清める働きとして理解されねばならない（希望下 375 ページ参照）。かつていかなる聖徒の一团も勝ち得たことのない勝利—人間の名の数字に打ち勝つこと—を得るための働きなのである。印された聖徒たちの口には偽りが無い。彼らは神の言葉だけを説くからである。「その時わたしはもろもろの民に清きくちびるを与え」（ゼパニヤ 3：9）。人間に源を置くあらゆるものから清められた信仰とメッセージを、彼らは持つに至るであろう。

「その日ユダの国で、この歌を歌う、『われわれは堅固な町をもつ。主は救をその石がきとし、またとりでとされる。門を開いて、信仰を守る正しい国民を入れよ。あなたは全き平安をもってころごしの堅固なものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである。とこしえに主に信頼せよ、主なる神はとこしえの岩だからである。……』。……われわれの神、主よ、あなた以外のもろもろの主がわれわれを治めた。しかし、われわれはただ、あなたの名のみをあがめる。死んだ者はまた生きない。亡霊は生き返らない。それで、あなたは彼らを罰して滅ぼし、彼らの思い出をことごとく消し去られた」（イザヤ 26：1-4, 13, 14）。

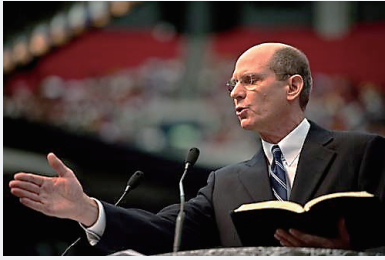
R. B.

# 第五九回 セブンスデー・アドベンチスト世界総会

ある兄弟からのメールと合わせてまとめてみました。

第59回セブンスデー・アドベンチスト世界総会が、今年6月23日〜7月3日、アメリカのジョージア、アトランタで開かれた。

世界総会大会最終日の安息日礼拝には世界中から集まってきた7万人に、新総理のテッド・ウィルソン所信演説、説教がなされた。



彼は、我々は最後の残りの民の教会員として再臨運動の原点に返ることを強調された。我々に託された三天使の使命すなわちキリストの恵みと救いを伝えるという使命を伝えるために前進しよう、後退はないと訴えた。我々は黙示録12ノ17に預言された最後の教会であること、我々の使命は黙示録14ノ6ー12に記されている三天使の使命であり、「SDAの聖書理解は不動で、全く変わっていません」と力説された。



アドベンチスト運動の行く手を阻もうとする壁として、

- ① 一部のメガチャーチが行っている誤った神学に基づく霊的成長プログラム、
- ② また非聖書的な神秘主義に基づく霊性訓練プログラムや教会合同運動、
- ③ 個人の感情や経験を偏重した音楽や礼拝、
- ④ 常に新しい教え（預言の解釈など）を求める狂信的信仰のあり方、
- ⑤ 無神論的進化論や有神論的進化論
- ⑥ そして歴史批評学的聖書解釈。

などをあげ、それらを乗り越えて前進することができるのは、

- ① 聖書のみ言葉と
- ② 証の書を通して与えられる神の恵みの救いによる他にないことが力強く語られました。

礼拝の終わりには、7万人の信者たちが後の雨を求めて2人づつ祈りを捧げ、リバイバルと献身を新たにしました。





SEMINAR

備えよ、備えよ、備えよ！

## 2010年 春のセミナーの主要ポイント

金城 重博

この度のセミナーは、6月16日から20日まで、蒸し暑い時期に持たれた。講師のハル・メイヤー先生は、”Keep the Faith キープ・ザ・フェイス ミニストリー”「信仰を守り続けよ」の主幹である。

「聖徒たちによって、ひとたび伝えられた信仰」(ユダ1:3)を伝えることに献身された先生である。主イエスから弟子たちに、各時代の聖徒たちに「ひとたび伝えられた信仰」を、特に「女の残りの子ら」が終わりの時代に宣べ伝えるべき「神の戒めとイエスの信仰」を録音メッセージを通して伝え、また招請される場所はどこへでも行って講演しておられる。

各時代、「神の戒めを守り、イエスの信仰を守る」忠実な聖徒たちがいた。しかし、セブンスデー・アドベンチストによって最後の純粋な真理が回復される。宗教改革の時代に改革は完成しなかった。セブンスデー・アドベンチストに宗教改革の完成

がゆだねられている。イエスの純潔で完全な品性が最後の民に回復される。我々は特殊な民である。我々の使命は黙示録14章の「三重の使命」である。その使命、教理、「ひとたび伝えられた信仰を守り続ける」ことには忍耐がいる。「最後まで耐え忍ぶ者が救われる」のである。

メイヤー先生の講義の要点をまとめてみよう。詳しくはぜひCDで聴いてほしい。非常に重要な最後の使命が語られている。

### 聖書の預言、物語の現代的適用

過去に起こったことがらは、最後の民に適用されるものとして記録されている。ただ過去の興味深い物語としてだけでなく、特に最後の時代へのメッセージとして捉えるべきだということを強調された。すると、神のみことばは生きていることを発見する。「これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。」1コリ10:11

E. G. ホワイトは、「古の預言者達は、自分たちの時代よりももっと最後の時代のことを語っている」と言っている。



たとえば、ヨハネ9章の盲人の物語は、実に現在の教会に適用できることを話された。教会の権威と個人的信仰の自由、信念、確信に生きることの重要性を教えられた。エステル記のアハシュエロス王、エステル、モルデカイ、ハマンの記録が最後の時代にも演じられるという具体的な適用をして、聖書の読み方に深い洞察ができることに目が開かれた。



ネブカデネザル王のした事に世界統一のサンプルを見る。

第二次世界大戦以来、国連は新世界秩序構築に向かって動いている。バビロンで起こったことと同じくグローバルな世界的秩序構築である。ネブ



カデネザルは経済的、政治的秩序の構築と宗教統一で礼拝を強制した。同じパターンで新世界秩序が構築されるであろう。まず、経済のグローバリゼーション、そして政治的グローバリゼーション、究極的には宗教的グローバリゼーションにもっていき、新世界秩序のもとに礼拝を強要することになる。それが世界的日曜休業令となって発展するであろう。

## 現代ヨーロッパに世界統一の例を見る

ネブカデネザルのとった政策が世界規模でなされるが、まず、ヨーロッパで予行演習がなされる。

常に争い合っていた多くの国々を集めて経済的に調和させることにした。ヨーロッパ連合 (EU) を作り上げるために、ローマは60年も働き続けてきた。まず、ヨーロッパ経済共同体 (EEC) をつくり、欧州共同体 (EC) になり、そして現代のヨーロッパ連合 (EU) となった。そして通貨を一つにすることに成功した。それができたなら、政治同盟がつけられる。一つのスーパーステイト、即ち、合衆国にするのである。秘密のうちになされているのでヨーロッパの人々は、起こっていることが何を意味するのか全く気がつかなかった。かつての神聖ローマ帝国の復活がねらいであった。

1957年に、ローマ条約がローマでなされた。ヨーロッパの指導者が集まって署名し、法王の承認を得た。ヨーロッパのすべての指導者はローマ・カトリック的思想をもった者たちであった。ヨーロッパが一つとなるためには、ドイツが一つとなる必要があった。そこで米国レーガン大統領とヨハネ・パウロ二世が共に謀り、ベルリンの壁崩壊によって東西ドイツを一つにしたのは1989年のことであった。その出来事によってヨーロッパが合衆国へと発展し、加速化する。それまでは、ヨーロッパ連盟のようなものであった。2009年12月に連合を達成、神聖ローマ帝国への進展をローマは非常に喜んだ。

EUのコントロールセンターは、ドイツになる。ローマはドイツをコントロールすれば、ヨーロッパは彼らの手中に陥ることを知っていた。中世時代も全くそうであった。歴史は繰り返す。ヨーロッパの中央銀行でユーロ通貨が印刷される。中央銀行をコントロールしているのはドイツである。ドイツをコントロールするのは、カトリックである。

政治経済的に一つとなることは実現した。今度は宗教的に一つになることが残された課題である。それが彼らの終局的な目的である。すでに今日、ヨーロッパの司教たちは、日曜休業令を強力に押し進めようとしていることが明らかになってきた。

EU (ヨーロッパ連合) 構築の段階は：

- 第一段階：経済的統一
- 第二段階：政治的統一
- 第三段階：宗教的統一

今まさにヨーロッパでは、第三段階に入ろうとしている。そして忘れてならないことは、ヨーロッパでなされることは、グローバル（世界規模）なスケールでなされる、予行演習のようなものである。世界的宗教統一を成し遂げるためには、ヨーロッパでなされてきた段階を踏んでなされる。それは、古代バビロンのネブカデネザルがやったことであった。

「現代は、すべての人間にとって、圧倒的な関心をそそられる時代である。統治者や政治家たち、責任と権威の地位を占めている人々、あらゆる階級の心ある男女、一すべての者は、周囲に起こりつつある事件に注意を集めている。彼らは国と国との間に存在する緊張した不穏な関係を見守っている。彼らは地上のあらゆる要素に緊張が加わりつつあるのをみて、そこに何か決定的な大事件がいまにも起ころうとしており、世界が途方もない危機の淵に臨んでいることを認めている。」教育212

ダニエル 3 章—世界秩序に従わない者たちは迫害される。

政治、経済、宗教的な統一が成就すると、新世界秩序に従わない神の民はどうなるだろうか。黙示録 13 章によると、彼らは迫害にあうことになる。国のあらゆる組織、要人たちが我々を助けることは決してしない。金融界からもボイコットされ、売ったり買ったりは許されない。物々交換さえできなくなる。あらゆる社会のすべてのものが神の民の敵に回るのである。

金の像を拝むことが強制されたように、黙示録 13 章によると、獣の像を拝むことが全世界に強要される。

このことは、我々に恐れを与えるであろうか？

イエスを主とあがめているなら、恐れる必要はない。しかし、ダニエル 3 章には、神の民はどんな結末を経験するかが書かれている。24、25 節によると、迫害の火が燃え盛る時、キリストのために苦しむ以外あらゆる選択肢が失われる。シャデラク、メシャク、アベデネゴのように、キリストが共におられ、ついには勝利する約束が与えられているから恐れることはない。

この物語は、神の民によって神のみ名があがめられることを保証している。

黙示録 13 章：アメリカが全世界に日曜休業令を強要する。

世界規模の宗教を強制するためには、世界規模の政治体制をつくらなければならない。世界経済統一、世界政治統一がなされる。そのステップを我々はヨーロッパに見ている。ローマがヨーロッパの国々で昔の権力を回復しなければ、世界権力をもつことは不可能である。ローマはヨーロッパの文化、道徳のガイドであることを主張してきた。今まで世俗化しているヨーロッパは、ローマの支配を拒絶してきたが、何らかの災害、恐怖に陥ると、間もなく近いうちにローマの主導権を仰ぐに至るであろう。ヨーロッパは、長い間、ローマの宗教に支配された苦い経験を持っている。しかし、日曜日はローマの権威のしるしであるから、日曜礼拝を基礎におきたいと望んでいる。今再び、文化、道徳、宗教的に一つとなるために、ローマの司教たちの叫びに耳を傾けて日曜休業令を強要していくであろう。

日曜休業令への四つの段階。

1. ヨーロッパのビジネス界において日曜休業令は昔からあったが、今日それが大っぴらに取り扱われるようになった。
2. すべての個人も仕事をしてはならないとされ、日曜休業令に服することを厳しく命じられる。個人的に家族も世俗的な活動にたずさわってはならないという法律。ただ重要なこと—交通機関、給油所など…以外は、家の修理や洗濯やペンキ塗りでさえもゆるされない。
3. 次に日曜日に礼拝すべしと来る。
4. 反日曜休業令者に「売ったり買ったり」など、社会の基本的な行動さえゆるされなくなる。村八分にされる。

二段階までは、すでにアメリカの数州でもなされている。

1998 年「DIES DOMINI」という法王の勅令が出された。日曜安息日を促進する文書である。前法王ヨハネ・パウロ 2 世が、その側近であったラツチンガー（現法王ベネディクト 16





世)と共につくったものであった。日曜休業令に持っていくために注意深くつくられた文書である。カトリックの主張とプロテスタントの主張を混ぜて作ったものである。現法王はその実現のために非常な努力をしている。

2007年に彼は、オーストリアのウィーンで日曜休業令を実現することによって、ヨーロッパの模範となるよう強調。「日曜日なくして我々は生きられない」と言った。

2008年、労働組合と協力してヨーロッパ議会で圧力をかけるが失敗。

2009年、労働組合、プロテスタントと一緒にヨーロッパの国々にまたしても圧力をかける。日曜休業令の第二段階に引き上げようとした。働く時間と休みの時間をしっかり確立し、日曜休業を法律化するようにと圧力をかける。

2010年に再度試みた。彼らは自分たちの要求を受け入れられるまで圧力をかけ続けるであろう。

今、カトリックの司教たちの性的スキャンダルが大きな問題になっているが、しかし、彼らもそれらをも利用してますますローマ法王権が回復される術を心得ているのである。

大争闘下 328 にこう書いてある：

「現在ローマ教会は、その恐ろしい残虐行為の記録を弁解しながら隠し、世界にもっともらしい顔を見せている。この教会はキリストのような衣を装っている。しかし**教会は変わっていない**。過去に存在した法王制のあらゆる原則は、**今日も保持されている**。最も暗い時代に案出された**数々の教理は**、今もなお支持されている。だれも欺かれてはならない。今日プロテスタントが尊敬しようとしている法王制は、宗教改革の時代に世界を支配していたのと同じものである。」

国と指導者下 120

「特に第4条の安息日を清くする者に対しては、人々の激しい怒りが燃やされる。そしてついに、世界的法令が發布されて、これらの人々を死に備える者として告発するのである。」

ローマの司教たちは、すぐ日曜休業令を法令化することはできないので、注意深く進めなければならないことを知っている。ヨーロッパにおいて**司教会議**という組織がある。アメリカにもその組織があり、彼らはどこの国においても政府のすぐ近くに位置している。ヨーロッパでは、EUの本部のあるブリュッセルに司教会議所を置いている。



労働時間の制限にさらに制限を加え、日曜日に休業することを法令化する。日曜日を共通の休みの日とすることは、労働者の健康のためであり、家族のためであるとして、労働組合が関わってくる(どんな貧しい労働者でも最低の特権が与えられるというので、日曜休業令は彼らからも歓迎される)。プロテスタント諸教会もその運動に参加している。宗教的な意味(礼拝)に持っていきたいが、今は「福祉の目的のため」と謳っている。社会全体の密なつながりのために、日曜日がどの日よりも最も合理的だと言っている。

ヨーロッパには「日曜同盟」という組織が早くからあった。もし、日曜休業令に従わないならば、村八分にされ、聖書で預言されている社会の最も基本的な営みである「売り買いができなくなる」。司教たちの日曜休業令の戦いは、国会レベルでなされているだけでなく、一般市民レベルでもなされている。彼らは100万人の署名を集めてEU会議に訴えようとしている。100万人の支持があれば、EU議会はそれを法案として取り上げることになっている。日曜休業の法案が通ると、次のステップは日曜礼拝令に変化する。

証の書は、日曜休業令はアメリカではじまり、全世界に広がると言っている。しかし、なぜ、現に今ヨーロッパで急速に進んでいるのであろうか。E. G. ホワイトが言っているのは、日曜礼拝令で、米国でそれができると全世界に広がるであろう。アメリカは最も宗教的な国で、ヨーロッパは、最も世俗化している。ヨーロッパでうまくいけば、アメリカは、自分の国で容易に同じことをやり遂げるであろう。

## 世界の諸事件の読み方について 重要な点を述べておきたい:

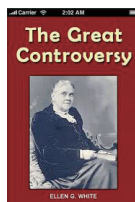
### 1. 聖書を読むとき、預言的な目で見ると、 我々の時代に適用するものとして見る。

- ・イエスが預言を与えたのである。イエスと預言は関係ないという人がある。預言を理解しないでイエスを完全に理解することはできない。
- ・聖書の物語から、預言的意味をくみ取ることが重要である。ダニエル1章、3章、エステル書も、ヨセフ、ダビデの生涯、ノアの物語、ロトの物語、…もみな今日の我々にとって預言的意味がある。

### 2. 証の書の知識が必要である。

証の書 (E. G. ホワイトの著書) の微細にわたる終末事件の預言は実にありがたいと思わないだろうか。それは、カーナビゲーターのようなものである。「証の書は小さな光である」と E. G. ホワイトは言っている。カーナビゲーターは衛星とつながって行く先へ正確に導く。右左に曲がれ、まちがったなら、声で指図をする。驚くべき機械であるが、預言の霊は同じように働く。聖書も同じように働く。聖書は全体的な教えをなし、証の書は終末の我々に具体的な教えを与えてくれる。例えば、危機が近づくとつれて、田舎に出よなどの具体的な指導を与えられている。

ある人は、証の書は小さい光であり、聖書は大きな光である。したがって聖書さえ勉強すれば、証の書は読まなくてもいいという。しかし、イザヤに聞いてみよ。「わたしは小さい光である」と答えるであろう。エレミヤ、ダニエル、ヨハネに聞いてみよ。「わたしは小さい光である」と同じように答える。同じ靈感を受けた E. G. ホワイトも同じように、大きな光であるイエスに人々の心を向けるのである。「神は人々を大きい光へ導くために小さい光をお与えになった」(文伝 125) との言葉はよく曲解される。小さい光は預言者たちのことで、大きな光は、イエス・キリストのことである。聖書の著者、預言者たちはみな小さな光である。上記の引用文は、証の書



を軽視するために用いられるので気を付けよう。「小さな光と大きな光」(ローレンス・ネルソン、元世界総会青年部長) に納得のいく説明がなされているので読んでいただきたい。

## ローマ・カトリックのアメリカにおける戦略

ダニエル 8:23, 24 は、終わりの時の法王のことを描写している。

法王教はどれほどアメリカに浸透しているか、その事実を知ると驚かない人はいないであろう。世界各国から要人たちがひんぱんに法王に謁見するようになっている。ブッシュ大統領は6回も謁見している。ヨハネ・パウロ2世と3回、ベネディクト16世と3回も。オバマが大統領になって6か月も経たないうちにすでに初の謁見をしている。50年前は、プロテスタントアメリカの大統領がそんなことをすることは不可能なことであった。アメリカは劇的に変化した。今日、ローマ・カトリックはアメリカにおいて非常に人気を得ている。

ローマは、アメリカのプロテスタントを「去勢」してしまった! エキュメニカル運動を通して、法王の人気を用いて、社会的協力関係、政治的手法を用いて、プロテスタンティズムを通して、セブンスデー・アドベンチストすら公に反カトリックのことを言わなくなった。

ローマは中絶、同性愛、人口受精等々に関してオバマと意見を異にしていたために、ローマは彼が大統領になることを望んでいなかった。しかし、ローマはそれらを用いてプロテスタントを巻き込むのであった。オバマは、実は、アメリカにおいてローマと長い間共に働いていた。ガマリエル財団 (Gamalliel Foundation) というのがあって、教会、特にカトリックのために政治的な働きをする団体である。彼はそのために20年間も働いてきた。それは、イエズス会の所有であるから、給料は彼らからもらっていたのである。米国民に政府に対する不満を抱かせるために働く機関でもあった。オバマは後に国会議員になり、カトリックから助言者たちを選ぶ。半分以上がイエズス会の大学で訓練された者たちであった。彼のトップの弁護士もイエズス会のジョージタウン大卒である。アメリカには28校のイエズス会の大学があるが、ジョージタウン大学は国会の最も近くに位置している。

国会議員の 535 人のうち 150 人はローマ・カトリックである。その 10% はジョージタウン大学で訓練を受けた者たちである。最高裁判官の 9 人中 6 人がカトリックである。もし、一般市民が日曜休業令を要求すると簡単にそれを擁護し、支持することになる。

30 年前にはアメリカ国会議員にイエズス会員が一人いた。20 年前には 8 人のイエズス会によって訓練された人がいた。10 年前には 26 人、今日 54 人もいる。彼らが司教であっても表に表すことはしない。しかし、アメリカ人はそういう事実を見ても、もう何の違和感も持たなくなっている。

ヴァージニアはアメリカの宗教自由が始まったところであった。ジェームス・マジソンやトーマス・ジェファーソンを生んだところであった。その州で最近、イエズス会の知事が選出された。オバマはその人を民主党のある委員会の議長に選んだ。オバマのトップスピーチライターはジョージタウン大学の出身である。ブッシュ大統領のトップスピーチライターも同様であった。

ブッシュ大統領の 8 年の任期が終わるころの演説は、法王のスピーチをまねしたものである。新聞でもそう評された。イエズス会の雑誌に称えられた。オバマ大統領は、副



大統領にバイデン（カトリック）を置いた。米国下院議会議長（日本で言う衆議院議長）にはナンシー・ペロシー（カトリック、最も影響力を持つ一人）を置いた。民主党党首はイエズス会大学出身、共和党党首もイエズス会大学出身者だ。CIA（中央情報局）のトップにイエズス会の出身者を置いた。国家安全省のトップも同様。国防省のトップも同様。中東問題担当のトップも同様。重要な秘密的な部署の責任者はみなそうである。健康省もしかり。労働省もしかり。内務省もしかり。総務省もしかり。全員がローマ・カトリックではないが、オバマ政権は要所にカトリックを置いている。ニューズウィーク誌は、オバマ政権はローマ・カトリックと

の重要な交渉なしの 1 週間というものはあり得ない」と書いた。

## ベネディクト16世の魔術？

### 「怒らせて和解」“Offense Reconcile Cycle—オフェンス・レコンサイル・サイクル”

ヨハネ・パウロ2世とベネディクト16世は、アメリカのプロテスタントを去勢したが、ベネディクト16世は、イスラムとの和解に新たな手を使おうとしている。他の様々なグループとの和解を試みているが、非常に巧みな手法を用いている。ダニエル8:25によると、彼は「悪知恵—口語訳、悪巧み—新改訳、才知—共同訳」を用いると言う。巧妙な操作である。そうして繁栄、成功するという。私はそれを“Offense Reconcile Cycle—オフェンス・レコンサイル・サイクル”と呼ぶ。つまり、立腹させて和解するという手段である。この方法は、今まで以上に親密な関係に持っていくことができるというのである。ベネディクト16世はこのテクニックに非常にたけている。

例えば、何年か前にプロテスタント教会を怒らせた。「プロテスタントはカトリックとつながっていないければ、本当の意味で教会とは言えない」と言って怒らせた。しかし、今ではみごとな和解が成り立っている。こうしてプロテスタントの不安に付け込んでくるのである。ユダヤ人を怒らせたことがあった。ミサを行った時にその祈りの中で、ユダヤ人をキリスト教に改宗させてくださいと祈った。それがユダヤ人の怒りをかったのである。ベネディクト16世は2008年の誕生日の時、ニューヨークのユダヤのシナゴグを訪ね彼らとも和解した。ブラジルに行ったとき、土人たちを清めると言って怒らせた。あなたがたは、かつて剣をもって我々を改宗させようとしたではないか、我々を清めるとはなんだと怒らせた。

しかし、最も顕著な出来事は、イスラムを怒らせたことであった。あの巨大な勢力とも和解政策が成功しつつある。2007年にドイツに行った時、彼は昔の皇帝の言葉を引用した。「イスラムから出るすべてのものは邪悪であり非人道的である」と。イスラム教徒をほんとに怒らせた。彼らは法王のわら人形を作って串刺しにして燃やした。またアフリカでは、カトリック教会に火をつけた。ベネ

ディクト 16 世は自分のやったことには謝罪をせず、その結果について遺憾の意を表するのみである。数か月後、ベネディクト 16 世は 38 人のイスラム学者たちから話し合いたいとの手紙を受け取った。彼はそれを想定していたのであった。バチカンはそのことについて、公的にしばらく沈黙を保っていた。1 年後、また手紙を受け取った。イスラムの 138 人の学者からのものであった。これだけだったら十分と思った。ほとんどの党派からのものであることを知ったので対話を始めた。2 年ごとに対話した。最初はローマで行われた。

2008 年 11 月 4 日、オバマが大統領に就任した日であった。選挙中にオバマはイスラム勢力にも働きかけた。大統領になってもその働きを続けた。ベネディクト 16 世が電話をしてきたが女性の受付がそれは誰かの擬声であろうと思い電話をつながなかった。ベネディクト 16 世は祝いの電報を打った。就任式にも手紙を送った。我々の最も弱者の人たちを保護する様にと。最も弱い者たちというのは胎児のことである。中絶から守るようにとの意味であった。

去年の真夏、ベネディクト 16 世は中東にいた。イスラムとイスラエルは平和の道を探る必要があると演説。ヒズボラ（パレスチナの好戦的団体）にも訴えた。キリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラム教徒が仲良くするように訴えた。3 週間後にオバマ大統領がカイロを訪問。同じ内容の演説をした。コーラン、トーラ、聖書から引用した。その演説の後、バチカンは非常な満足を表明した。



レーガンとヨハネ・パウロ 2 世の協力で東欧共産主義国を崩壊させたように、今日もオバマとベネディクト 16 世の協力によって巨大勢力イスラムを崩壊させようとしていると、あるジャーナリストはうがった考察をした。

ベネディクト 16 世とオバマは何を成し遂げようとしているのであろうか？ 法王は、オバマを利用してイスラムとの和解を成し遂げようとしてい

る。オバマのバックグラウンドはイスラムなので、イスラムにとって有効な器になることをベネディクト 16 世は熟知しているのである。

米国は選択の余地がないほどローマ・カトリックと密接につながっている。選挙にこの勢力の支援を得ないと勝利できない。驚くべき預言の成就ではないだろうか。

我々は、今こそ、心の全き清めをいただく時であり、聖書の研究に没頭する時ではないだろうか。

今、我々は最後の時代に住んでいる。備えはいかに。純潔な心と意を持って準備しよう。そして容赦なく吹きまくる嵐がとどめられるように祈るべきである。

## セブンスデー・アドベンチストの歴史に善悪の大争闘を見る。

メイヤー先生による秩序だった分かりやすいアドベンチストの歴史は、非常に興味深かった。今日、多くの SDA 信徒が、どこかがおかしい、なぜそうなったのかと思案し、焦燥の中にあることは否めない。アドベンチストの真の歴史を知ることは、わが教会の今日の背教の原因がどこにあるのかを教えてくれる。1888 年に何が起こったのか、1919 年の聖書会議の不思議なエピソード、1930 年代の教育機関認可の問題、1950 年代の福音派学者との長時間の対話等々の真実がわかると、なるほどとうなずけるであろう。

これも CD でぜひ、研究してほしい。目からうろこという経験をするにちがいない。

その知識が、我ら何をなすべきかという問いに答えを与えることになると思う。

「わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを捨てて、わたしの祭司としない。あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる。」ホセア 4:6

「おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」。ルカ 19:44

## ※ 私のチルダイを吹き飛ばして下さった神様

※チルダイー沖縄方言で「意気消沈」



伊佐 真勇

### 教会とクリスチャンとの出会い

心臓機能障害とチルダイで疲労困憊の日々を過ごしている時、「元気になるために今帰仁教会にいったら」と前川千恵子さん（一力豆腐）の勧めで今帰仁教会を訪問しました。訪問の日は安息日でした。対応してくれたのは呉屋さんでした。その後、金城先生、名嘉山利恵さんと相談してジュース断食を受けました。

早朝5時30分前後から毎日断食のために、呉屋さん、名嘉山さんにジュースを作ってもらいました。僕一人のためにとすると内心スマナイ気持ちでした。また、金城先生からは健康講話を受けました。「心と健康、歩くことは最も良い運動、水は究極の治療薬、ニンジンの効用、レモンの効用、間食について、肉食に関する科学者の発言、チョコレートと用い方、現代病の原因」等々について詳しく説明してもらいました。特に、金城先生より「健康維持、増進のために、ニュースタート健康8原則を実施するように」強調されました。

その間、水野源三さんのDVDを鑑賞しました。障害者である水野さんのクリスチャンとしての生き様をみて、私のチルダイと悩みは一挙に吹き飛ばしてしまいました。また、早朝礼拝で「対人関係の秘訣」というテーマを輪読した結果、キリスト教への偏見が少々なくなり、関心が高まりました。特に、怒りの克服について感動しました。

### 安息日、早朝礼拝、その他の礼拝

当初、無神論者であった私にとって、聖書、証の書、その他の文献についてチンプンカンプンでしたが、少しずつ理解できるようになった。最初に1コリント13章（愛が最大の賜物）の聖句に感銘しました。その他、箴言の聖句も感動しました。箴言は人生訓であり日々の生活及び行動の指針にしています。箴言15章は教訓的です。

早朝礼拝でなされる証の書合本の輪読は学ぶ事が多いです。特に、人類のあけぼの下第58章「預言者の学校」は私にとって有益でした。（p259）

有益な文言として、人生の大事業について「品性の建設であって、神をしることはすべての真の教育の基礎である。この知識を与え、それに調和した品性を形成することが、教師の仕事の目的でなければならない。神の律法は、神の品性の写しである。」と述べています。

聖書について「人間が所有する最も教訓の豊かな歴史である。それは永遠の真理の根源から直接与えられたものである。そして、神のみ手が各時代を通して、その純粋性を保持してきた。それは、人間的研究によっては、見通すことのできない遠い過去を照らし出している。神のみことばの中に、地球の基礎をすえ、天を張った力を見る。

人間の偏見と誇りに汚されていない人類歴史を発見できるのは、ただここだけである。ここに、世界最大の人物の苦闘と敗北と勝利とが記録されている。ここに、義務と運命の大問題が展開されている。見える世界と見えない世界を隔てている幕が掲げられて、罪が最初に侵入したときから、善と真理が最後に勝利するまでの善と悪の軍勢の闘争を見るのである」と明言されています。

真の宗教については「体的、知的、道徳的に、人間を神の律法に調和させる。それは、自制と落ち着きと節制とを教える。宗教は、精神を高尚にし、趣味を洗練し、判断を清める。それは、人間を天の清らかさを持った者とする。神の愛と摂理の支配を信ずる信仰は、心配や苦勞の重荷を軽くする。それは、人間がどんなに高められようが、どんなに低い境遇におかれようが、心を喜びと満足で満たす。宗教は、直接健康の増進と長寿に寄与し、人生のすべての祝福の楽しみを増す。それは、人の心に尽きることのない幸福の泉を開く。」と述べています。

## 賛美歌との出会い

不思議に賛美歌を聴くと心が安らぐ。最初に感動したのは池宮城義浩さんの献唱の時「十字架より叫び聞こゆ」の賛美歌に武者震いしました。その結果、大城愛さん、城間さとえさん、名嘉山梨恵さんに依頼し賛美歌40曲余り、CDに録音してもらいました。また、むつ美さんより石部さんの賛美歌20余りのCDももらいました。

入院中、金城先生より「病床の詩篇」のテープももらい毎日聞きました。その中で「十字架の愛」は感動的な賛美歌で一番、気に入っています。

歌に対する聖句を探したらありました。

「主にむかって歌え、主をほめたたえ、そのすべてのくすしみわざを語れ。その聖なるみ名を誇れ、主を尋ね求める者の心を喜ばせよ。」(詩篇105篇2、3節)

「主はわが力、わが盾。わたしの心は主に寄り頼む。わたしはたすけを得たのでわたしの心は大いに喜び、歌をもって主をほめたたえる」(詩篇28篇7節)

「歌は失望するときいつでも用いることのできる武器である。救い主より出る光に心をうち開くとき、健康と祝福を受ける。」(ミニストリーオブヒーリング232頁)

## アドベンチスト信仰の柱について述べます。

私たちの教会は、キリストがまもなく来られるという燃えるような聖霊による確信の中でうまれました。アドベンチスト教会は、神がこの世界に最終的に警告をつたえるために民を起こされたという確信から生まれました。それは、黙示録14章の三天使が叫んだ「永遠の福音」のメッセージです。先駆者たちは、神が滅びゆく世界に伝えるための特別なメッセージを教会に与えられたという信仰をもって献身してきました。しかし、時代の経過と共に、かつての先駆者たちの魂に熱く燃えていた熱意と献身が失われているように見えます。

今日、私たちの教会の中にも、自分は他の教会とそれほど変わっていない、変わるべきでない、あるいは独特なメッセージの働きをあまり強調すべきでないと考える人たちがいます。

その一方で、セブンスデー・アドベンチスト教会がたてられたのは、単にもう一つの教派をふやすためではなく、世界に伝える何か特殊なもの、優れたものを神が私たちに与えておられるからであると信ずる人たちもたくさんいます。もしそうでないなら、SDA教会の存在する意味がありません。

神が私たちに与えられるのはアドベンチストの独自の、きわめて重要な真理です。

私たちがルーテル教会、聖公会、バプテスト教会、メソジスト教会の信者でなく、セブンスデー・アドベンチスト教会の信者であるのはこれらの真理のゆえです。もっともこれらの真理のすべてがアドベンチストに特有のものというわけではありません。しかし、いわゆる「現代の真理」という背景の中で総合的に考えるなら、これらの真理はほかに教えている人のいない独特なメッセージで、私たちの存在理由はここにあります。

キリストはそれぞれの教理の中心です。十字架、聖所、キリストの大祭司としての働き、三天使の使命、調査審判、裁き、再臨などみな相互に関連した真理です。これらをキリストの光に照らして理解するとき、私たちは自分が何者であって、この終わりの時代にあって何をなすべきかがわかります。私たちは主イエスの輝かしい再臨を待ち望んでいます。

## 私の決心

わたしは、イエス・キリストの死と復活を信ずる信仰を言い表し、罪に死に新しい命に生きる決意を表明します。その結果、キリストが主であり救い主であることを認め、メイヤー牧師によるバプテスマを受けました。神の民となり、教会によって、その会員として受け入れられることを確信します。

全く神の存在など信じられなかった私を、ここまで導いてくださった神様に感謝します。





今日み声を聞いたなら...

何年も前に、ある国際登山チームが、世界最高峰のエベレスト山をのぼっていた。

登山者のひとりが、デス・ゾーンと呼ばれる地帯の岩棚で立ち往生した。標高 8848 メートルを誇るエベレスト山は、標高 7500～8500 メートルにかけての行程が特に恐ろしく、酸素が非常に薄いため危機的状況にある。登山者の判断能力はがた落ちした。このような状態で、登山者らは不合理な決断をすることがしばしばあり、そのために命をおとした者も少なくない。立ち往生した登山者は、崖から転落して骨折し、その極度の痛みの中でまる二日間も動けずにいた。

吹雪の中、捜索、救援隊が彼を探し出した。彼を引き上げる唯一の手段は、そばにおろされたロープにハーネスを引っかけることであった。ところが、ハーネスを引っかけようとしないのである。風でかなり聞きとりにくかったが、彼はこう言った。「僕はロープにつかまらないよ、あったかくて、そのまま寝たいんだ。」いかに説得を試みても、むだであった。彼は岩棚で死に、その凍った遺体は、誤った選択の恐ろしさを物語っている。

「きょう、み声を聞いたなら、あなたがたのこころを、かたくなにはしてはいけない」ヘブル 4：7  
神のみ霊の声を拒み続けていくとますます心は冷たく、かたくなになる。遅くならないうちに神の愛に応答しよう。手をさしのべよう。

「彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。」ヘブル 7：25

皆さん方には主の恵みの内にお健やかに過ごしの事と存じます。

さてこの度、長い間私が心にひめて、いつか必ず証の本を書きたいと願って居りましたが、やっとその夢が実現致しました。真につたないものですが、神が与えて下さった尊い体験を一人でも多くの方々にお分ちしたいと願って居ります。

以前、福音社からマンガで“導かれて”と題してサイズ誌に連載されましたが、その詳細を本にまとめました。

不思議な神の御手によって私の人生を導いて下さった愛と恵みを感じ取って頂き神の御手が崇められます様にとお祈りします。

又、この売上金は全て伝道資金として用いられますので何卒皆様方の心からなる献金としてお捧げ頂きましたら感謝です。

皆様方御一人一人の上に神の豊かな守りと導き祝福をおいのり致します。

— 2010年 CAにて—

ランキン 洋子

### 書籍のご案内



B5版 127頁 700円

# 書籍案内

The History of Redemption

## 贖いの歴史

地球の創造から選民イスラエルの歴史。キリストの降誕、十字架、復活そしてそれに続くキリストの弟子たちの宣教時代。ローマの圧制時代、そしてローマカトリックの起こり、クリスチャン弾圧、暗黒時代と宗教改革の歴史。アメリカにおける再臨運動と大失望、そして聖所のメッセージで誕生したセブンスデーアドベンチスト教会の起こり。そして聖書の預言から見る現代の世界の動きと将来何が起こるか？また贖われる人々生き残る人々とはどういう人たちか？やがて来るキリストの再臨と死んだ聖徒たちの復活の希望。千年期と新しい地に至るまでの壮大な贖いの歴史、その全貌を見る。難漢字ルビ付き。

A6判525頁 エレン・G・ホワイト著 価格:500円  
チャート付き:価格:1,900円



## ディスカバリー タイムス

考古学的諸発見が  
聖書を実証する！

現代の考古学発見の終末的意味と警告。  
ロン・ワイヤットの驚くべき考古学発見に多くの人が目覚めている。

A4判16頁 価格:200円



## 2010年春のセミナー収録集

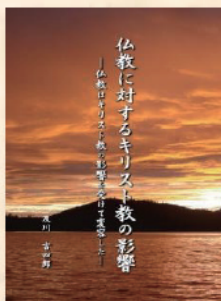
“備えよ備えよ備えよ” ハル・メイヤー

- CD 【21枚】価格:4,200円 (音声)
- DVD 【15枚】価格:6,000円 (動画)
- MP3 【DVD-DATA1枚】価格:1,680円 (音声)
- カセットテープ 【21本】価格:6,300円 (音声)

## 仏教に対するキリスト教の影響

及川 吉四郎 著

日本人のほとんどは、仏教についてたいへんな思い違いをしている。開祖であるお釈迦さまのおしえとはまるっきり違う理解の仕方をしている。今日の仏教はすっかり変質してしまっているのである。その上、仏教は遠い昔にキリスト教の影響を受けて変容し、形成されたという、まさに秘史ともいふべき側面を持っている。仏教徒の方々にも、また、仏教徒の人々に伝道したいと思っているキリスト教徒にとっても、この本に記されていることを理解することは非常に重要である。



A5判326頁  
価格:1,200円



みなさまのお越しを  
心よりお待ちしております。



OPEN AM11:00~PM 6:00  
CLOSE 金・土  
※春、秋に一週間ほどの臨時休業がございます。

<http://herb.srministry.com/>  
沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471  
TEL & FAX 0980-56-5681



Anchor  
www.srministry.com

サンライズ ミニストリー  
〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471  
TEL: 0980-56-2783 FAX: 0980-56-2881  
Email: [contact@srministry.com](mailto:contact@srministry.com) [www.srministry.com](http://www.srministry.com)  
郵便振込番号: 02080-0-12121 サンライズミニストリー

サンライズ・ミニストリー刊行誌 「アンカー」の目的と編集指針

Published By Sunrise Ministry Okinawa JAPAN

- 我々は次のことを信じてアンカーを出版している。
1. 我々SDAの働きと使命は三天使の使命である。(6T 384, 2SM 142)
  2. 第三天使の使命は人々をキリスト再臨の栄光の前に立ち得る特別な備えをさせるものである。(9T 98, 大争闘下 140)
  3. 第三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別な贖いを受ける。(初代文集 414, 5, 7)
  4. 我々は神のご計画されたこの特別な祝福、特別な経験を拒み続けてきた。特に1888年以来(RH26, 1890年)

5. ダニエル書8:14の聖句は再臨信仰の土台であり、み業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生き残る人々 422, EV 221, ST 575)
6. エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同等の靈感が与えられた預言者である。(1SM36)
7. 最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー(錨)は、三重の使命、聖所、安息日、人の性質、イエスの証(預言の霊)等である。(初代文集 417, 1T 300)
8. アンカーはリレーの最終走者の意味もある。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世界に完成する最後の時代である。不信仰によって、150年も時が延

- ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(大争闘下 182, 教育 328) 信仰による義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待っておられる。再臨とみ業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとするならば、我々の今日の、義務は何か、約束のものを受ける条件は何なのかを研究し、共に備えたいと思う。
9. セブンスデー・アドベンチストは最後の「残りの民」である。たとい教会がどんなに背教しようとも、激しい震いの経験をして、純潔な教会となり、永遠の神の目的がこの教会によって達成されると信じている。